

2 市町村被災状況カルテ

凡 例

- 1 掲載している市町村の県内における位置については、本編冒頭の xxvi 宮城県全図 を参照。
- 2 地図上において津波浸水域は濃緑色 (■) で示している。
●は市役所・町村役場を、■は区役所、支所・出張所を示す。●は県合同庁舎を、■は消防局・消防本部を示す。
なお、鉄道の駅及びその他施設等については、縮尺の関係で地図中に掲載していない場合がある。
- 3 当カルテに掲載している情報の出典は以下のとおり。
なお、ホームページ上で公開されている情報は更新されている場合がある。

■基本情報（世帯数、人口除く）

- ・(公財) 宮城県市町村振興協会：「平成 22 年度 市町村概要みやぎ」（宮城県総務部市町村課、〔公財〕宮城県市町村振興協会、平成 23 年 1 月）

■基本情報（世帯数、人口）

- ・宮城県：「統計データ／宮城県推計人口」（宮城県ホームページ）
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/38794.pdf>（確認日：平成 26 年 7 月 7 日）

■被害の概要

- ・気象庁：「災害時地震・津波速報 平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」（気象庁ホームページ）
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/saigaiji/saigaiji_201101/saigaiji_201101.html
（確認日：平成 26 年 7 月 7 日）
- ・宮城県：「東日本大震災の地震被害等状況及び避難状況について」（宮城県ホームページ）
<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/km-higaizyoukyou.html>（確認日：平成 26 年 7 月 7 日）
※住家被害にある半壊には大規模半壊を含む。

■避難状況・復旧状況

- ・宮城県：「宮城県災害廃棄物処理実行計画（第 1 次案）」（宮城県ホームページ）
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/6621.pdf>（確認日：平成 26 年 7 月 7 日）

※なお、上記以外については、市町村で発行されている記録誌、震災復興計画、市町村アンケート結果等に基づき掲載している。

※死者数の計上場所については、災害報告取扱要領により原則被災地で計上するものとされているが、被災地が不明な場合、同要領の運用通知（平成 24 年 3 月 9 日付け消防庁国民保護・防災部防災課応急対策室長通知）により死体発見場所で計上されている。

<p>①仙台市 せんだいし</p> <p>〒980-8671 仙台市青葉区国分町 3-7-1 【TEL】 022-261-1111 【URL】 http://www.city.sendai.jp</p>																																			
																																			
<p>基本情報（平成22年4月1日時点）</p> <table border="1"> <tr> <td>世帯数 (平成23年3月1日)</td> <td>455,958世帯</td> <td>職員数</td> <td>9,446人</td> </tr> <tr> <td>人口 (平成23年3月1日)</td> <td>1,046,737人</td> <td>面積</td> <td>783.54km²</td> </tr> <tr> <td>支所・出張所</td> <td>区役所 5か所</td> <td>支所</td> <td>2か所</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>商業 12,745店</td> <td>工業</td> <td>572所</td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院 59院</td> <td>診療所</td> <td>845所</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育施設</td> <td>児童福祉施設</td> <td>121所</td> <td>幼稚園 106園</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>132校</td> <td>中学校 72校</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>36校</td> <td>大学・短大 13校</td> </tr> <tr> <td>年間観光客数</td> <td>19,372,182人</td> <td>ごみ総排出量</td> <td>427,796t</td> </tr> </table>		世帯数 (平成23年3月1日)	455,958世帯	職員数	9,446人	人口 (平成23年3月1日)	1,046,737人	面積	783.54km ²	支所・出張所	区役所 5か所	支所	2か所	事業所	商業 12,745店	工業	572所	医療施設	病院 59院	診療所	845所	教育施設	児童福祉施設	121所	幼稚園 106園	小学校	132校	中学校 72校	高等学校	36校	大学・短大 13校	年間観光客数	19,372,182人	ごみ総排出量	427,796t
世帯数 (平成23年3月1日)	455,958世帯	職員数	9,446人																																
人口 (平成23年3月1日)	1,046,737人	面積	783.54km ²																																
支所・出張所	区役所 5か所	支所	2か所																																
事業所	商業 12,745店	工業	572所																																
医療施設	病院 59院	診療所	845所																																
教育施設	児童福祉施設	121所	幼稚園 106園																																
	小学校	132校	中学校 72校																																
	高等学校	36校	大学・短大 13校																																
年間観光客数	19,372,182人	ごみ総排出量	427,796t																																
<p>市町村合併</p> <p>国内姉妹都市・友好都市</p> <p>中野市（長野県） 竹田市（大分県） 徳島市（徳島県） 宇和島市（愛媛県） 白老町（北海道）</p>																																			
<p>市の概要</p> <p>東側は太平洋に面し、県中央部を横断する広大な市域内には、船形山や広瀬川、名取川など多彩な自然景観が展開され、「杜の都・仙台」として親しまれている。</p> <p>平成元年に全国11番目の政令指定都市となり、平成11年に人口が100万人に達した。</p> <p>産業はサービス業の占める割合が大きく、これらの市内総生産は、県内総生産の商業、サービス業の6割を占めている。</p> <p>観光では仙台城跡、大崎八幡宮、瑞鳳殿、秋保・作並温泉など各種観光名所に恵まれている。8月6日から8日にかけて行われる仙台七夕まつりには全国から観光客が訪れる。</p>																																			
<p>被害の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 6強（本震） 浸水面積 4,977ha 最大浸水深 13.9m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 655人 震災関連死 258人 行方不明者 30人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 276人 軽傷 1,999人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 30,034棟 半壊 109,609棟 一部損壊 116,046棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 本庁舎内壁にひび割れ、議会棟内装、煙突及び井水高架水槽が損傷した。分庁舎1棟で内外壁に多数の被害があり解体した。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> 公民館は全壊2棟、半壊50棟。体育館は天井が落下したほか、内外壁、排水設備、空調設備の損傷したほか、地盤沈下も発生。文化施設はホール天井の一部や照明が落下したほか、スプリンクラーが破損した。文学館は駐車場法面が崩壊し、水道管破裂等の被害が生じた。 このほか、消防分署1棟が津波で全壊した。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 保育所2所が応急危険度判定で危険と判断された。小学校3校が津波で使用不能、1校が地滑りで使用見合わせとなり、123校が被災した。中学校は64校、高等学校は5校が被災した。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 1,352,000 t 																																			
<p>被害の特徴</p> <p>本市では3月11日の本震で、宮城野区において最大震度6強を記録した。</p> <p>その後襲った津波は、東部沿岸地域に甚大な被害をもたらした。8,110世帯で浸水被害が発生し、約1,800haの農地が浸水した。</p> <p>人的被害については、市内で908人（平成25年9月30日時点）が死亡し、その多くが津波によるものであった。</p> <p>建物被害については、建築基準法の新耐震設計基準よりも前に建てられた建物を中心に、一部で建物構造上の大きな被害が生じた。</p> <p>宅地被害については、昭和30～40年代にかけて造成された住宅地を中心に地すべりや地盤の崩壊、擁壁の損壊等、広範囲にわたり甚大な被害が発生した。</p> <p>電気・ガス・水道等や交通機関、通信インフラにおいても大きな被害が生じた。</p> <p>避難者については、本震発生後、市内ほぼ全域で避難所が開設され、翌12日には帰宅困難者も含めると本市人口の約10分の1にあたる10万人以上が避難所へ身を寄せた。</p>																																			
<p>避難状況・復旧状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 105,947人 最大避難所数 288か所 福祉避難所数 40か所 避難所開設期間 3月11日～7月31日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全城復旧 電気 約841,000戸 5月7日 水道 約230,000戸 3月29日 ガス 約359,000戸 4月16日 ※全城復旧は津波被害地域及び地滑り地域をく。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 19団地 整備戸数 1,523戸 																																			
<p>復興計画等</p> <p>「仙台市震災復興計画」：減災を基本とする多重防御の構築やエネルギー対策など環境政策の新しい展開に向けた取組などを総合的に推進しながら、「新次元の防災・環境都市」を掲げ、しなやかでより強靱な都市の構築に向けて、多様で幅広い市民力とともに、市の復興を力強く推進する。</p>																																			
<p>市の記録誌</p> <p>『東日本大震災 1年の記録 ともに、前へ 仙台』（平成24年3月） 『東日本大震災 仙台市 震災記録誌 ～発災から1年間の活動記録～』（平成25年3月）</p>																																			



②石巻市 いしのまきし 〒986-8501 石巻市穀町14-1 【TEL】0225-95-1111 【URL】http://www.city.ishinomaki.lg.jp																																																																						
	基本情報（平成22年4月1日時点）																																																																					
	<table border="1"> <tr> <td>世帯数 (平成23年3月1日)</td> <td>60,928世帯</td> <td>職員数</td> <td>1,799人</td> </tr> <tr> <td>人口 (平成23年3月1日)</td> <td>160,394人</td> <td>面積</td> <td>555.78km²</td> </tr> <tr> <td>支所・出張所</td> <td>10か所</td> <td>出張所</td> <td>1か所</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>商業 2,499店</td> <td>工業</td> <td>426所</td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院 10院</td> <td>診療所</td> <td>104所</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育施設</td> <td>児童福祉施設</td> <td>32所</td> <td>幼稚園 15園</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>43校</td> <td>中学校 21校</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>9校</td> <td>大学・短大 1校</td> </tr> <tr> <td>年間観光客数</td> <td>2,596,014人</td> <td>ごみ総排出量</td> <td>65,420t</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 市町村合併 </td> <td colspan="2"> 国内姉妹都市・友好都市 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 平成17年4月、石巻市、河北町、雄勝町、河南町、桃生町、北上町、牡鹿町が合併し石巻市となる。 </td> <td colspan="2"> 河北町（山形県） ひたちなか市（茨城県） </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 市の概要 </td> <td colspan="2"> 市街地は北上川河口付近に位置し、その周囲は太平洋や北上山系などの自然豊かな都市である。 農林水産業、工業、商業がバランスよく発展し、特に水産業については世界三大漁場の一つである金華山沖に近く、全国有数の水産都市となっている。 また、平成13年には市が進めるマンガランド構想の中核施設となる「石ノ森萬画館」を開館しており、マンガを生かした夢のあるまちづくりを推進している。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 被害の概要 </td> <td colspan="2"> 被害の特徴 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6強（本震） 浸水面積 7,700ha 最大浸水高 17.5m（金華山） ●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点) 死者 3,270人 震災関連死 253人 行方不明者 438人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 不明 軽傷 不明 程度不明 不明 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 20,034棟 半壊 13,042棟 一部損壊 19,948棟 </td> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎は浸水により電気・機械設備等が故障し、6階議会議棟、ホール等の天井が崩落。2支所、2総合支所、1出張所が津波で全壊した。1支所が津波で半壊、2総合支所が地震で半壊した。 ●その他公共施設の被害 公民館8棟が津波による全壊、10棟が半壊の被害を受けたほか、文化施設2棟についても全壊の被害を受けた。 ●学校施設等の被害 幼稚園1園、小学校10校、中学校4校、高校1校が津波による被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 5,383,000 t </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 避難状況・復旧状況 </td> <td colspan="2"> 津波により市街地や集落に甚大な被害が生じ、市の港湾や漁港、無堤防となっている旧北上川河口部などでは、後背地を含め被害が拡大したほか、河川や運河、用排水路にも津波が押し寄せ、市域の約13%、平野部の約30%が浸水する被害となった。死者・行方不明者が約4,000人と、全国市町村の中で最も多い人的被害となった。 防波堤の破損流失は多数におよび、定置網や養殖施設はほぼ全壊となり、漁船も損失した。水産加工関連施設は582棟の被害。養殖施設は1,247経営体数の被害。魚市場は3施設が被害を受けた。 特産品の笹かまぼこに代表される水産加工品の主要工場・販売店は沿岸部に位置しており、津波により破壊的な被害を受けた。また、カキ、ワカメ、ノリ、ギンザケ、ホタテなどの養殖施設が多大な被害を受け、生産量に大きな影響を及ぼした。 観光施設については、沿岸地域のサン・ファン館、石ノ森萬画館、おしかホエールランドや6か所の海水浴場などが、津波や地盤沈下により大きな被害を受けており、特に離島の観光地である金華山は、がけ崩れや栈橋沈没等の被害が甚大で定期船の運航ができなくなる影響を受けた。 3月18日 建物の大半が流出、内海橋にがれきが残る中瀬 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 50,758人 最大避難所数 259か所 福祉避難所数 13か所 避難所開設期間 3月11日～10月11日 最大二次避難者数（県関与分）635人 二次避難の実施期間 4月20日～平成24年3月末 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全城復旧 電気 市内全域 3月15日 水道 市内全域 3月31日 ガス - 5月14日 ※全城復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 131団地 整備戸数 7,297戸 </td> <td colspan="2">  </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 復興計画等 </td> <td colspan="2"> 「石巻市震災復興基本計画」：市街地においては、高盛土道路より内陸を可住地として良好な住環境を整備し、高盛土道路より海側は公園や産業ゾーンとして整備する。沿岸・半島部においては、最大級の津波への対策として安全な高台や内陸部への居住を促進する。移転に伴って生じる跡地は漁港の復旧や新たな産業の創出の場としての利用を推進する。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 市の記録誌 </td> <td colspan="2"> - </td> </tr> </table>	世帯数 (平成23年3月1日)	60,928世帯	職員数	1,799人	人口 (平成23年3月1日)	160,394人	面積	555.78km ²	支所・出張所	10か所	出張所	1か所	事業所	商業 2,499店	工業	426所	医療施設	病院 10院	診療所	104所	教育施設	児童福祉施設	32所	幼稚園 15園	小学校	43校	中学校 21校	高等学校	9校	大学・短大 1校	年間観光客数	2,596,014人	ごみ総排出量	65,420t	市町村合併		国内姉妹都市・友好都市		平成17年4月、石巻市、河北町、雄勝町、河南町、桃生町、北上町、牡鹿町が合併し石巻市となる。		河北町（山形県） ひたちなか市（茨城県）		市の概要		市街地は北上川河口付近に位置し、その周囲は太平洋や北上山系などの自然豊かな都市である。 農林水産業、工業、商業がバランスよく発展し、特に水産業については世界三大漁場の一つである金華山沖に近く、全国有数の水産都市となっている。 また、平成13年には市が進めるマンガランド構想の中核施設となる「石ノ森萬画館」を開館しており、マンガを生かした夢のあるまちづくりを推進している。		被害の概要		被害の特徴		<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6強（本震） 浸水面積 7,700ha 最大浸水高 17.5m（金華山） ●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点) 死者 3,270人 震災関連死 253人 行方不明者 438人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 不明 軽傷 不明 程度不明 不明 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 20,034棟 半壊 13,042棟 一部損壊 19,948棟 		<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎は浸水により電気・機械設備等が故障し、6階議会議棟、ホール等の天井が崩落。2支所、2総合支所、1出張所が津波で全壊した。1支所が津波で半壊、2総合支所が地震で半壊した。 ●その他公共施設の被害 公民館8棟が津波による全壊、10棟が半壊の被害を受けたほか、文化施設2棟についても全壊の被害を受けた。 ●学校施設等の被害 幼稚園1園、小学校10校、中学校4校、高校1校が津波による被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 5,383,000 t 		避難状況・復旧状況		津波により市街地や集落に甚大な被害が生じ、市の港湾や漁港、無堤防となっている旧北上川河口部などでは、後背地を含め被害が拡大したほか、河川や運河、用排水路にも津波が押し寄せ、市域の約13%、平野部の約30%が浸水する被害となった。死者・行方不明者が約4,000人と、全国市町村の中で最も多い人的被害となった。 防波堤の破損流失は多数におよび、定置網や養殖施設はほぼ全壊となり、漁船も損失した。水産加工関連施設は582棟の被害。養殖施設は1,247経営体数の被害。魚市場は3施設が被害を受けた。 特産品の笹かまぼこに代表される水産加工品の主要工場・販売店は沿岸部に位置しており、津波により破壊的な被害を受けた。また、カキ、ワカメ、ノリ、ギンザケ、ホタテなどの養殖施設が多大な被害を受け、生産量に大きな影響を及ぼした。 観光施設については、沿岸地域のサン・ファン館、石ノ森萬画館、おしかホエールランドや6か所の海水浴場などが、津波や地盤沈下により大きな被害を受けており、特に離島の観光地である金華山は、がけ崩れや栈橋沈没等の被害が甚大で定期船の運航ができなくなる影響を受けた。 3月18日 建物の大半が流出、内海橋にがれきが残る中瀬		<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 50,758人 最大避難所数 259か所 福祉避難所数 13か所 避難所開設期間 3月11日～10月11日 最大二次避難者数（県関与分）635人 二次避難の実施期間 4月20日～平成24年3月末 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全城復旧 電気 市内全域 3月15日 水道 市内全域 3月31日 ガス - 5月14日 ※全城復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 131団地 整備戸数 7,297戸 				復興計画等		「石巻市震災復興基本計画」：市街地においては、高盛土道路より内陸を可住地として良好な住環境を整備し、高盛土道路より海側は公園や産業ゾーンとして整備する。沿岸・半島部においては、最大級の津波への対策として安全な高台や内陸部への居住を促進する。移転に伴って生じる跡地は漁港の復旧や新たな産業の創出の場としての利用を推進する。		市の記録誌		-
世帯数 (平成23年3月1日)	60,928世帯	職員数	1,799人																																																																			
人口 (平成23年3月1日)	160,394人	面積	555.78km ²																																																																			
支所・出張所	10か所	出張所	1か所																																																																			
事業所	商業 2,499店	工業	426所																																																																			
医療施設	病院 10院	診療所	104所																																																																			
教育施設	児童福祉施設	32所	幼稚園 15園																																																																			
	小学校	43校	中学校 21校																																																																			
	高等学校	9校	大学・短大 1校																																																																			
年間観光客数	2,596,014人	ごみ総排出量	65,420t																																																																			
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市																																																																				
平成17年4月、石巻市、河北町、雄勝町、河南町、桃生町、北上町、牡鹿町が合併し石巻市となる。		河北町（山形県） ひたちなか市（茨城県）																																																																				
市の概要		市街地は北上川河口付近に位置し、その周囲は太平洋や北上山系などの自然豊かな都市である。 農林水産業、工業、商業がバランスよく発展し、特に水産業については世界三大漁場の一つである金華山沖に近く、全国有数の水産都市となっている。 また、平成13年には市が進めるマンガランド構想の中核施設となる「石ノ森萬画館」を開館しており、マンガを生かした夢のあるまちづくりを推進している。																																																																				
被害の概要		被害の特徴																																																																				
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6強（本震） 浸水面積 7,700ha 最大浸水高 17.5m（金華山） ●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点) 死者 3,270人 震災関連死 253人 行方不明者 438人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 不明 軽傷 不明 程度不明 不明 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 20,034棟 半壊 13,042棟 一部損壊 19,948棟 		<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎は浸水により電気・機械設備等が故障し、6階議会議棟、ホール等の天井が崩落。2支所、2総合支所、1出張所が津波で全壊した。1支所が津波で半壊、2総合支所が地震で半壊した。 ●その他公共施設の被害 公民館8棟が津波による全壊、10棟が半壊の被害を受けたほか、文化施設2棟についても全壊の被害を受けた。 ●学校施設等の被害 幼稚園1園、小学校10校、中学校4校、高校1校が津波による被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 5,383,000 t 																																																																				
避難状況・復旧状況		津波により市街地や集落に甚大な被害が生じ、市の港湾や漁港、無堤防となっている旧北上川河口部などでは、後背地を含め被害が拡大したほか、河川や運河、用排水路にも津波が押し寄せ、市域の約13%、平野部の約30%が浸水する被害となった。死者・行方不明者が約4,000人と、全国市町村の中で最も多い人的被害となった。 防波堤の破損流失は多数におよび、定置網や養殖施設はほぼ全壊となり、漁船も損失した。水産加工関連施設は582棟の被害。養殖施設は1,247経営体数の被害。魚市場は3施設が被害を受けた。 特産品の笹かまぼこに代表される水産加工品の主要工場・販売店は沿岸部に位置しており、津波により破壊的な被害を受けた。また、カキ、ワカメ、ノリ、ギンザケ、ホタテなどの養殖施設が多大な被害を受け、生産量に大きな影響を及ぼした。 観光施設については、沿岸地域のサン・ファン館、石ノ森萬画館、おしかホエールランドや6か所の海水浴場などが、津波や地盤沈下により大きな被害を受けており、特に離島の観光地である金華山は、がけ崩れや栈橋沈没等の被害が甚大で定期船の運航ができなくなる影響を受けた。 3月18日 建物の大半が流出、内海橋にがれきが残る中瀬																																																																				
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 50,758人 最大避難所数 259か所 福祉避難所数 13か所 避難所開設期間 3月11日～10月11日 最大二次避難者数（県関与分）635人 二次避難の実施期間 4月20日～平成24年3月末 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全城復旧 電気 市内全域 3月15日 水道 市内全域 3月31日 ガス - 5月14日 ※全城復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 131団地 整備戸数 7,297戸 																																																																						
復興計画等		「石巻市震災復興基本計画」：市街地においては、高盛土道路より内陸を可住地として良好な住環境を整備し、高盛土道路より海側は公園や産業ゾーンとして整備する。沿岸・半島部においては、最大級の津波への対策として安全な高台や内陸部への居住を促進する。移転に伴って生じる跡地は漁港の復旧や新たな産業の創出の場としての利用を推進する。																																																																				
市の記録誌		-																																																																				

③塩竈市 しおがまし 〒985-8501 塩竈市旭町1-1 【TEL】022-364-1111 【URL】http://www.city.shiogama.miyagi.jp				
				
基本情報（平成22年4月1日時点）				
世帯数 （平成23年3月1日）	22,165世帯	職員数	656人	
人口 （平成23年3月1日）	56,221人	面積	17.86km ²	
支所・出張所	支所	—	出張所	—
事業所	商業	1,067店	工業	145所
医療施設	病院	4院	診療所	44所
教育施設	児童福祉施設	10所	幼稚園	7園
	小学校	7校	中学校	5校
	高等学校	1校	大学・短大	—
年間観光客数	2,189,544人	ごみ総排出量	24,095t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市		
—		—		
市の概要		松島湾に面し、国の特別名勝指定を受けるなど景観に優れた浦戸諸島を包括する。水産業は年間100億円の水揚げ高を有し、本市の基幹産業となっている。とりわけ、生マグロは日本有数の水揚げ量を誇る。また、水産加工業は全国有数であり、練り製品の生産高日本一を誇っている。また、ノリ、カキなどが特産品となっている。観光分野では、奥州一の宮として知られる鹽竈（しおがま）神社は年間90万人の参拝客を集め、優れた景観を持つ浦戸諸島は海水浴、ハイキング等にてぎわいをみせる。		
被害の概要		被害の特徴		
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 6強（本震） 浸水面積 433ha 最大浸水深 4.8m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 26人 震災関連死 18人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 2人 軽傷 8人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 672棟 半壊 3,278棟 一部損壊 6,993棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 本庁舎外壁の塗装が剥離し、内壁・柱梁に亀裂が生じた。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> ふれあいエスプ塩竈は外壁の一部に亀裂。公民館は外壁に亀裂が生じたほか、のり面一部落石等の被害を受けた。公民館浦戸分館は津波により全壊。市民図書館の書庫内の可動式書棚が破損し、浦戸離島センター閲覧図書が流失した。塩竈市体育館は天井パネルが落下し、老番館の1階自動ドアが破損したほか、外壁タイル剥離などの被害を受けた。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 保育所2所で防災ガラスの破損、床断裂などの被害を受けた。小学校5校、中学校5校で地震による被害。屋内運動場の外壁が剥落したほか、壁ボード、建具ガラス、校舎床、エキスパンションジョイント内外壁損壊などの被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 596,000 t 		地震による被害に加え、沿岸部や浦戸地区に津波による甚大な被害が生じた。本土地区では市域面積の約22%が浸水し、浦戸地区では一部の高台地域などを除いて居住区域のほとんどが浸水するなど、壊滅的な被害を受けた。基幹産業である水産業や笹かまぼこ、揚げかまぼこなどの水産加工場、港湾関連産業も津波によって多大な被害を受け、浦戸地区における浅海養殖漁業にも甚大な影響が生じた。また、本震災により平成23年4月から8月期の市内観光客入込数は前年から64.8%減少した。塩竈神社や浦戸諸島をはじめとする観光客の減少は、観光産業及び地域経済に大きな影響を及ぼした。		
避難状況・復旧状況		3月12日 マリンゲート塩釜前		
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 8,771人 最大避難所数 46か所 福祉避難所数 4か所 避難所開設期間 3月11日～7月13日 最大二次避難者数（県関与分） 0人 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全域復旧 電気 - 3月15日 水道 - 4月17日 ガス - - ※全域復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 7団地 整備戸数 206戸 				
復興計画等		「塩竈市震災復興計画」：浦戸地区では地盤沈下対策や高台への集団移転等に取り組むほか、離島航路や診療所の機能回復に取り組む。また、公共交通機関や病院など生活に密接に関係のある機能を早期に復旧させ、脆弱性が明らかになった施設の浸水対応力や耐震性の強化を図るなど、生活の復興と市街地の復興を両輪ととらえ、市民協働のもと被災者の生活再建に最優先で取り組む。		
市の記録誌		—		

④ 気仙沼市 けせんぬまし 〒988-8501 気仙沼市八日町1-1-1 【TEL】 0226-22-6600 【URL】 http://www.city.kesennuma.lg.jp			
			
基本情報（平成22年4月1日時点）			
世帯数 (平成23年3月1日)	26,601世帯	職員数	1,359人
人口 (平成23年3月1日)	73,154人	面積	333.37km ²
支所・出張所	支所 2か所	出張所	2か所
事業所	商業 1,227店	工業	218所
医療施設	病院 5院	診療所	34所
教育施設	児童福祉施設	11所	幼稚園 11園
	小学校	21校	中学校 13校
	高等学校	6校	大学・短大 -
年間観光客数	2,601,674人	ごみ総排出量	23,082t
市町村合併 平成18年3月に気仙沼市、唐桑町が合併。平成21年9月に本吉町を編入。		国内姉妹都市・友好都市 一関市（岩手県） 目黒区（東京都）	
市の概要 県北東端、北上山地の南東部に位置し、湾口に大島を抱き、四季静穏な天然の良港を形成している。 水産業と観光業を中心として産業が発展し、造船・製氷冷凍業などの水産関連産業や商業の集積度も高い。特に、漁船漁業は、遠洋・沖合漁船の全国有数の船籍港であり、地域経済の中で重要な位置を占めている。 陸中海岸国立公園や海域公園など、優れた海洋観光資源を有する三陸沿岸南部の観光拠点都市である。特産品は、ウニ、アワビ、ホタテ、ホヤ、ワカメ、カキ、コンブ等の魚介藻類やフカヒレなどの水産加工品である。			
被害の概要		被害の特徴	
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6弱（本震） 浸水面積 1,833ha 最大浸水深 19.3m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 1,090人 震災関連死 107人 行方不明者 233人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 不明 軽傷 不明 程度不明 不明 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 8,483棟 半壊 2,571棟 一部損壊 4,761棟 		<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 ワン・テン庁舎1階が津波により浸水した。 ●その他公共施設の被害 公民館は3館で流失・全壊の被害を受け、1館は半壊した。自治会館及び集会施設は気仙沼地域は全147施設中36施設で、唐桑地域は全16施設中5施設で、本吉地域は全31施設中10施設で流失・全壊の被害を受けた。運動施設は1施設が津波で流失し、総合体育館は2施設で地震で被害を受けた。 ●学校施設等の被害 幼稚園は2園が使用不能となり、小学校は3校が津波による被害を受けた。中学校は6校が地震及び津波による被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 2,268,000 t 	
避難状況・復旧状況			
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 23,573人 最大避難所数 97か所 福祉避難所数 20か所 避難所開設期間 3月11日～12月30日 最大二次避難者数（県関与分）126人 二次避難の実施期間 4月20日～9月12日 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 電気 市内全域 5月30日 水道 24,409戸 6月15日 ガス 2,706戸 5月27日 ※全域復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 93団地 整備戸数 3,504戸 		3月11日 津波による気仙沼湾の火災の様子	
復興計画等 「気仙沼市震災復興計画」：「復興の基本理念」のもと、「復興の目標」を実現するため、7つの「計画の柱」とそれに連なる194の重点事業を掲げている。防災集団移転促進事業や水産加工施設等復旧支援など復旧・復興事業に取り組むほか、人材の育成や新たな観光戦略に基づく施策の展開などにより創造的復興を目指す。			
市の記録誌		-	

⑤白石市 しろいしし 〒989-0292 白石市大手町1-1
 【TEL】0224-25-2111 【URL】http://www.city.shiroishi.miyagi.jp



基本情報（平成22年4月1日時点）			
世帯数 (平成23年3月1日)	13,917世帯	職員数	366人
人口 (平成23年3月1日)	37,273人	面積	286.47km ²
支所・出張所	支所 ー	出張所	ー
事業所	商業 475店	工業	66所
医療施設	病院 3院	診療所	28所
教育施設	児童福祉施設	8所	幼稚園 3園
	小学校	15校	中学校 7校
	高等学校	2校	大学・短大 ー
年間観光客数	836,731人	ごみ総排出量	13,043t
市町村合併	国内姉妹都市・友好都市		
	登別市（北海道） 海老名市（神奈川県） 札幌市白石区（北海道）		

市の概要
 県南端に位置し、西は奥羽山脈、東は阿武隈山系に囲まれた盆地のほぼ中央に市街地が広がり、西から東に白石川が流れている。市域の約7割が山林を占め、山岳地帯は降雪が多い。主要産業は製造業であり、情報電子機器、電子部品、デバイス製品の占める割合が大きい。商業は郊外に大規模店舗が立地している。登山、スキー、高原マラソンなど蔵王山麓でのイベントや白石城、鎌先・小原温泉、スパッシュランドしろいし等の観光資源で誘客するとともに、城下町の史跡と蔵王連峰の自然を生かしたリゾート地区形成に努めている。

被害の概要	
<p>●地震・津波の概要 最大震度 6弱（本震） 津波被害 なし</p> <p>●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点) 死者 0人 震災関連死 1人 行方不明者 0人</p> <p>●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 0人 軽傷 18人 程度不明 0人</p> <p>●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 40棟 半壊 566棟 一部損壊 2,171棟</p>	<p>●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎の内外壁等が破損したほか、議場の天井が落下するなどの被害を受けた。</p> <p>●その他公共施設の被害 公民館、図書館等の壁面に亀裂が生じ、水道管が破裂するなどの被害を受けた。</p> <p>●学校施設等の被害 市内の学校施設の外壁等が破損し、天井が一部落下するなどの被害を受けた。</p> <p>●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 97,000t</p>

被害の特徴
 全世帯中、約2,800世帯が被災し、5世帯に1世帯が何らかの住家被害を受けた。被害総額は、本市が管理する道路・施設だけでも63億円を超えており、市内の住宅をはじめ商業や農林業、製造業などへの影響は計り知れないものであった。市内では地滑り、地割れ、土砂崩れなどが発生した。また、液状化による下水道被害が大きく、地盤の弱い地域の家屋被害が大きかった。一方、原発事故により、しいたけや果樹などの出荷制限や風評被害が生じた。観光施設である、白石城や武家屋敷、スパッシュランドしろいしなどに大きな被害が発生し、利用できなかったことに加え、原発事故の風評被害により観光客が激減した。

避難状況・復旧状況	
<p>●避難状況 最大避難者数 1,910人 最大避難所数 21か所 福祉避難所数 7か所 避難所開設期間 3月11日～9月30日 最大二次避難者数（県関与分）0人</p>	<p>●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 電気 市内全域 3月17日 水道 9,000戸 3月28日 ガス ー ー ※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸</p>



復興計画等 「白石市東日本大震災復興計画」：震災により被害を受けた市民の中でも、特に高齢者や障害者に配慮してライフライン等の復旧を進め、社会生活基盤の再生復興を図る。また、観光イベントを盛大に行うことなどで、震災による風評被害や自粛ムードを払拭し、観光産業を軸とした地域経済サイクルの早期復興を目指す。市民の防災意識の向上を図るため、自主防災組織の拡充支援も行う。

市の記録誌 『東日本大震災 白石市の記録』（平成26年3月）

⑥名取市 なとりし

〒981-1292 名取市増田字柳田80
 【TEL】 022-384-2111 【URL】 <http://www.city.natori.miyagi.jp>



基本情報（平成22年4月1日時点）			
世帯数 <small>（平成23年3月1日）</small>	26,433世帯	職員数	600人
人口 <small>（平成23年3月1日）</small>	73,603人	面積	100.7km ²
支所・出張所	支所 ー	出張所	ー
事業所	商業 734店	工業	91所
医療施設	病院 4院	診療所	46所
教育施設	児童福祉施設	8所	幼稚園 9園
	小学校	11校	中学校 5校
	高等学校	2校	大学・短大 2校
年間観光客数	1,119,103人	ごみ総排出量	24,974t
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市	
ー		上山市（山形県） 新宮市（和歌山県）	
市の概要 県のほぼ中央に位置し、名取・阿武隈川に囲まれた肥沃な土地や温暖な気候に恵まれ、古くから農耕に適した自然豊かな土地柄である。新産都市の指定以来、大企業の進出が相次いだが現在は第三次産業の比重が高まり、経済のソフト化が進んでいる。今後は仙台空港所在の特性を生かし、臨空型産業の誘致を図る。観光では、東北最大の雷神山古墳をはじめ埋蔵文化財の宝庫として名高い。中世の東北における熊野信仰の中心として栄華を極めた熊野三社があり、例年伝統的な神楽が奉納演舞される。生鮮野菜、カーネーション等が特産品。			

被害の概要

- 地震・津波の概要
 最大震度 6強（本震）
 浸水面積 2,740ha
 最大浸水深 11.8m
- 死者・行方不明者
（平成26年4月30日時点）
 死者 911人
 震災関連死 41人
 行方不明者 40人
- 負傷者（平成26年4月30日時点）
 重症 14人
 軽傷 194人
 程度不明 0人
- 住家被害（平成26年4月30日時点）
 全壊 2,801棟
 半壊 1,129棟
 一部損壊 10,061棟
- 本庁舎・支所・出張所等の被害
 庁内の給水管が破損し、内外壁にひび割れが発生した。本会議場の天井が落下し、資材倉庫のシャッターが開閉不能になった。
- その他公共施設の被害
 公民館2館が半壊し、体育館は1館が津波で流出したほか、2館で天井・壁が落下した。文化会館は天井及び壁が落下し、地盤沈下が生じた。
- 学校施設等の被害
 保育所1所が津波で全壊し、小学校と中学校各1校が津波浸水と漂流物の衝突により使用不能となった。小学校10校と中学校4校で照明灯が落下し、地盤沈下が生じた。
- 災害廃棄物推計量（3月27日時点）
 636,000 t

被害の特徴

津波による被害により市域の約3割が浸水した。死亡原因の95.9%が津波による溺死であった。沿岸部の家屋被害では全壊が多数を占め、閉上地区では海から1km以内の木造住宅は、ほぼ全て流出した。下増田地区では、仙台空港前海岸で浸水深12.3m、仙台空港ターミナルビル東壁面で5.7mの浸水深を記録した（〔独〕港湾空港技術研究所調べ）。また、発災後に火災が発生するなど、閉上・下増田地区の沿岸部は壊滅的な被害を受けた。さらに4月7日に発生した震度6弱の余震で被害は一層拡大し、広い範囲で地盤沈下や地面の陥没、液状化現象が発生した。市域の約3分の2が平坦地であることから、津波で流されてきた多くのがれきが水田内に残された。また、海水に浸かった1,677haの農地が塩害の被害を受けた。海岸の防潮林についても津波による流出と塩害によりそのほとんどが失われた。津波によって東北一の生産量を誇っていたカーネーションの温室が大打撃を受けた。また、全国的に有名な赤貝は漁船が被災したために漁獲量が激減したほか、北釜地区のクールボジャメロンも栽培ができなくなった。

避難状況・復旧状況

- 避難状況
 最大避難者数 11,233人

 最大避難所数 52か所
 福祉避難所数 8か所
 避難所開設期間 3月11日～6月23日

 最大二次避難者数（県関与分）13人
 二次避難の実施期間 4月11日～7月19日
- ライフライン被害・復旧状況

最大被害	全城復旧
電気 40,377戸	3月15日
水道 9,200戸	3月27日
ガス 6,295戸	4月1日

 ※全城復旧は津波で流出した地域を除く。
 ※4月7日の余震の影響を含む。
- 応急仮設住宅
 団地数 8団地
 整備戸数 910戸



3月11日 津波に襲われる仙台空港

復興計画等

「名取市震災復興計画」：下増田地区における集団移転では、コミュニティ維持などを通じ安全・快適な生活空間の創出を進める。また、国際的な交流拠点としての仙台空港周辺の可能性を分析のうえ、貞山運河や広浦及びその周辺、閉上漁港、閉上ビーチなどの地域資源を生かした沿岸部活性化の戦略的ビジョンを検討し、民間投資など多様な力が活かせる環境づくりを進める。

市の記録誌

『東日本大震災 名取市の記録』（平成26年10月）

⑦角田市 かくだし 〒981-1592 角田市角田字大坊41 【TEL】 0224-63-2111 【URL】 http://www.city.kakuda.miyagi.jp				
基本情報（平成22年4月1日時点）				
世帯数 (平成23年3月1日)	10,851世帯	職員数	294人	
人口 (平成23年3月1日)	31,188人	面積	147.58km ²	
支所・出張所	—	出張所	—	
事業所	商業 381店	工業	71所	
医療施設	病院 3院	診療所	14所	
教育施設	児童福祉施設	2所	幼稚園	5園
	小学校	9校	中学校	3校
	高等学校	1校	大学・短大	—
年間観光客数	196,709人	ごみ総排出量	9,963t	
市町村合併	国内姉妹都市・友好都市			
—	石川町（福島県） 栗山町（北海道） 目黒区（東京都）			
市の概要	県南部に位置し、仙台市から南へ約40kmの地点にある。東は亶理郡、北は柴田郡、西は白石市とそれぞれ丘陵によって境し、南は伊具盆地の南半を占める丸森町に接している。 産業の主軸は農業から工業へと移行している。農業は稲作主体から果樹、畜産、花き、野菜、特用林産などとの複合経営が推進されている。 工業は誘致企業が22社を教え、中島工業団地、駅西口工業団地などに電機、自動車部品、繊維、プラスチック製品などの製造業が立地している。			
被害の概要		被害の特徴		
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6弱（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 0人 軽傷 4人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 13棟 半壊 158棟 一部損壊 1,034棟 		<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 東西庁舎の渡り廊下が損壊するなどの被害を受けた。 ●その他公共施設の被害 市民センター、郷土資料館が半壊の被害を受けた。総合体育館では一部天井が落下した。 ●学校施設等の被害 被害は軽微であった。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 50,000 t 		
避難状況・復旧状況		3月29日 市民センターの天井崩落		
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 511人 最大避難所数 15か所 福祉避難所数 1か所 避難所開設期間 3月11日～7月27日 最大二次避難者数（県関与分）0人 		<ul style="list-style-type: none"> ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 電気 市内全域 3月17日 水道 市内全域 3月26日 ガス 被害なし ※4月7日の余震により、水道が一時断水（4月12日全域復旧） ●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸 		
復興計画等	「角田市震災復旧・復興基本計画」：社会生活基盤の一刻も早い復旧に努めるほか、福島第一原発事故への対応については的確な情報提供を行うなど、市民生活の安全・安心に努める。また、農畜産物の安定した生産・流通・販売を進め、角田ブランドを構築することで専業・経済の再生を図る。さらに、今回の震災を踏まえ防災対策の見直しや防災拠点施設の機能強化を進める。			
市の記録誌	『2011. 3. 11 東日本大震災 角田市の記録』（平成26年11月）			

⑧多賀城市 たがじょうし		〒985-8531 多賀城市中央2-1-1 【TEL】 022-368-1141 【URL】 http://www.city.tagajo.miyagi.jp				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 (平成23年3月1日)	24,733世帯	職員数	451人	
		人口 (平成23年3月1日)	62,990人	面積	19.65km ²	
		支所・出張所	支所	—	出張所	—
		事業所	商業	533店	工業	50所
		医療施設	病院	1院	診療所	35所
		教育施設	児童福祉施設	9所	幼稚園	8園
			小学校	6校	中学校	4校
			高等学校	2校	大学・短大	—
		年間観光客数	705,713人	ごみ総排出量	22,685t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市				
—		太宰府市（福岡県） 天童市（山形県） 奈良市（奈良県）				
市の概要		県の東部太平洋岸に近く、東南に向かって平野が開け、仙台湾に面し工場地帯を形成している。西南部を七北田川、中心部を砂押川が東西に貫流し、年間を通じて比較的温暖である。仙台湾背後地を中心とした工場地帯で、電機、金属、食料品等の製造業が主軸となり、卸・小売業やサービス業を中心とした第三次産業で構成されている。 国の特別史跡多賀城跡（日本三大史跡）や国の重要文化財の多賀城碑（日本三大古碑）など重要な歴史的・文化財遺産を有する。毎年6月中旬から開催される「多賀城跡あやめまつり」には多くの市民や観光客が訪れる。				
被害の概要		被害の特徴				
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 5強（本震） 浸水面積 623ha 最大浸水深 5.5m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 188人 震災関連死 30人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 不明 軽傷 不明 程度不明 不明 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 1,746棟 半壊 3,730棟 一部損壊 6,123棟 		<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 東庁舎の玄関欄間ガラス、大会議室天井が破損したほか、講堂ガラスが破損した。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> 公民館2館、総合体育館、市民プール、市民図書館、文化センターで建物及び付帯施設等に被害を受けた。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 小・中学校10校が地震により内外壁、壁面ボード、天井材、建物周りなどに被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 582,000 t 				
避難状況・復旧状況		地震発生後、仙台湾釜港仙台湾区に7m、市内に2mから4mの津波が押し寄せ、砂押川の南側がほぼ浸水した。市域の約3分の1、全世帯の約5分の1に浸水被害が発生した。津波浸水域以外の地域においても、約5,900世帯の家屋が地震による被害を受けており、住まいの被害が甚大なものとなった。 また、津波により市内に流入した膨大な量のがれき、土砂に加え、5,000台を超える車両、タンクローリー、貨物などの漂流物によって、事業所、工場は被害を受け、本市の産業・経済は大きな影響を受けた。 ライフラインについては、いたるところで道路が陥没したほか、橋も通行止めとなった。特に、下水道は被害が大きかった。 その他、仙台湾地区において製油所火災が発生したことから、製油所を中心とした半径2km内の住民に対し避難指示が出された。				
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 10,284人 最大避難所数 41か所 福祉避難所数 3か所 避難所開設期間 3月11日～9月30日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全域復旧 電気 全戸 3月21日 水道 全戸断水 4月17日 ガス 全戸 4月12日（塩釜ガス地区） 4月20日（仙台市ガス局地区） ※全域復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 6団地 整備戸数 373戸 		3月12日 津波により積み重なった自動車				
復興計画等		「多賀城市震災復興計画」：市民生活の再建やハード・ソフト両面からの減災の取組、さらに都市部から海が直視できない立地環境のため津波が襲来するという認識を持ちにくい状況があったことなどを踏まえ、今回の震災の経験・知恵・教訓を後世に伝承し、市民らや行政が一丸となって「史都 多賀城」の独自性を最大限に発揮し、都市としての魅力を高める取組を推進する。				
市の記録誌		『平成23年3月11日 あの日を忘れない 東日本大震災の記録』（平成25年4月）				

⑨岩沼市 いわぬまし 〒989-2480 岩沼市桜1-6-20 【TEL】0223-22-1111 【URL】http://www.city.iwanuma.miyagi.jp	
	基本情報（平成22年4月1日時点）
	世帯数（平成23年3月1日） 16,003世帯 職員数 375人
	人口（平成23年3月1日） 44,160人 面積 60.71km ²
	支所・出張所 支所 ー 出張所 ー
	事業所 商業 488店 工業 92所
	医療施設 病院 5院 診療所 26所
	教育施設 児童福祉施設 8所 幼稚園 4園
	小学校 4校 中学校 4校
	高等学校 1校 大学・短大 ー
	年間観光客数 2,299,560人 ごみ総排出量 16,092t
市町村合併 ー 国内姉妹都市・友好都市 南州市（高知県） 尾花沢市（山形県）	
市の概要 仙台平野の南部を流れる阿武隈川河口に位置し、東は太平洋に接し、豊かな四季を生む自然と穏やかな気候に恵まれている。交通の要衝としての歴史を持ち、現在も国道4号、6号、JR東北本線、常磐線の結節地点であり、東北の空の玄関口として発展を続けている仙台空港の所在地を生かした物流産業が盛んである。日本三稲荷の竹駒神社のほか、金蛇水神社等を有し、多くの観光客が訪れる。	
被害の概要	被害の特徴
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6弱（本震） 浸水面積 2,828ha 最大浸水高 10.5m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 180人 震災関連死 6人 行方不明者 1人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 7人 軽傷 286人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 736棟 半壊 1,606棟 一部損壊 3,086棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 大きな被害なし。 ●その他公共施設の被害 公民館1館が津波で全壊し、公民館4館が地震と津波で半壊した。市民会館は舞台施設・設備が破損した。陸上競技場ではトラックが割れ、市民体育センターでは天井が破損した。 ●学校施設等の被害 小・中学校で地震津波等による校舍壁面、床面に亀裂が生じたほか、設備損傷、校庭亀裂、地盤沈下などの被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 389,000 t 	沿岸部が津波により甚大な被害を受け、平坦な地形のため市内全域の約48%が浸水し、沿岸市町の中で最大割合の被災面積となった。農地被害面積は1,240haであり、田畑へのがれき流入による被害や、海水による塩害が発生した。また、市内沿岸部にある2つの工業団地では、津波により二野倉工業団地で全ての建物が全壊し、仙台空港臨空矢野目工業団地内では、建物のほとんどが全壊あるいは半壊の被害を受けた。仙台空港は旅客ターミナルビルを含め、空港全体が浸水した。観光資源への影響については、沿岸部の観光資源が津波により全壊し、その他の市指定文化財や観光施設でも地震により建物の一部損壊、設備の損壊等があった。
避難状況・復旧状況	3月19日 津波襲来後の仙台空港
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 6,825人 最大避難所数 26か所 福祉避難所数 4か所 避難所開設期間 3月11日～6月5日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 電気 全戸停電 3月21日 水道 全戸断水 5月17日 ガス ー ※全域復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 3団地 整備戸数 384戸 	
復興計画等	「岩沼市震災復興計画グランドデザイン」：津波の力を軽減させる防潮堤整備や千年希望の丘の整備などのほか、エコ・コンパクトシティの形成を基本とする集団移転を検討する。耐塩性植物や高付加価値作物の栽培を軸とした農業の再生、自然共生・国際医療産業都市の誘致、仙台空港が立地するなど交通の結節点である市の特性を活かし、新分野の企業誘致などの産業の振興を図る。
市の記録誌	『東日本大震災岩沼市の記録～震災から3年 地域再生と復興への軌跡～』（平成26年3月）

⑩登米市 とめし 〒987-0595 登米市迫町佐沼字中江2-6-1 【TEL】 0220-22-2111 【URL】 http://www.city.tome.miyagi.jp																
	基本情報（平成22年4月1日時点）															
	<table border="1"> <tr> <td>世帯数 (平成23年3月1日)</td> <td>26,438世帯</td> <td>職員数</td> <td>1,675人</td> </tr> <tr> <td>人口 (平成23年3月1日)</td> <td>83,691人</td> <td>面積</td> <td>536.38km²</td> </tr> </table>	世帯数 (平成23年3月1日)	26,438世帯	職員数	1,675人	人口 (平成23年3月1日)	83,691人	面積	536.38km ²							
	世帯数 (平成23年3月1日)	26,438世帯	職員数	1,675人												
	人口 (平成23年3月1日)	83,691人	面積	536.38km ²												
	<table border="1"> <tr> <td>支所・出張所</td> <td>支所</td> <td>9か所</td> <td>出張所</td> <td>4か所</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>商業</td> <td>1,273店</td> <td>工業</td> <td>167所</td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院</td> <td>6院</td> <td>診療所</td> <td>42所</td> </tr> </table>	支所・出張所	支所	9か所	出張所	4か所	事業所	商業	1,273店	工業	167所	医療施設	病院	6院	診療所	42所
	支所・出張所	支所	9か所	出張所	4か所											
	事業所	商業	1,273店	工業	167所											
	医療施設	病院	6院	診療所	42所											
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">教育施設</td> <td>児童福祉施設</td> <td>18所</td> <td>幼稚園</td> <td>12園</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>23校</td> <td>中学校</td> <td>10校</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>5校</td> <td>大学・短大</td> <td>—</td> </tr> </table>	教育施設	児童福祉施設	18所	幼稚園	12園	小学校	23校	中学校	10校	高等学校	5校	大学・短大	—		
	教育施設		児童福祉施設	18所	幼稚園	12園										
小学校			23校	中学校	10校											
高等学校		5校	大学・短大	—												
年間観光客数 2,484,686人 ゴミ総排出量 22,854t																
市町村合併 平成17年4月に迫町、登米町、東和町、中田町、豊里町、米山町、石越町、南方町、津山町が合併して登米市となる。	国内姉妹都市・友好都市 入善町（富山県）															
市の概要 基幹産業は稲作中心の農業であり、畜産と園芸等との複合経営も拡大している中で、道の駅などの産地直売による地場産業の振興や地産地消の推進により、地域経済の活性化を図っている。 旧柳津虚空蔵尊・横山不動尊などの歴史的・文化的遺産及び漫画家・石ノ森章太郎の生家やふるさと記念館等がある。また渡り鳥が飛来する伊豆沼・内沼の自然環境など、各分野にわたる観光スポットがある。 B級ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」にも出場した油麩井は美味しくヘルシーな井として親しまれ、登米の味を全国に発信している。																
被害の概要	被害の特徴															
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6強（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 0人 震災関連死 8人 行方不明者 4人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 12人 軽傷 40人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 201棟 半壊 1,798棟 一部損壊 3,362棟 	<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎及び支所8所において一部の壁面などに軽度のひび割れが発生した。 ●その他公共施設の被害 建物が大規模に沈下して公民館1館が全壊し、農業研修センターが半壊した。体育センターではガラス・窓枠破損等による半壊被害を受けた。 ●学校施設等の被害 小学校1校で階段室が傾き半壊し、中学校1校では校舍全体が被災し、校舎と屋内運動場の基礎杭が座屈したほか、天井が落下し、壁面にひび割れが生じるなどの半壊被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 183,000 t 															
避難状況・復旧状況	<p>3月11日 登米市登米町 蔵が崩壊</p>															
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 6,230人 最大避難所数 53か所 福祉避難所数 3か所 避難所開設期間 3月11日～9月13日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全城復旧 電気 26,438戸 4月10日 水道 26,438戸 4月14日 ガス 被害なし ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸 																
復興計画等	「登米市震災復興計画」：復興の基本方針の1つである公共施設の計画的復旧においては、合併前の9町から引き継いだ目的が重複する施設の統合などを検討に加えるなど、市政の課題解決も視野に入れた公共施設の再構築を図る。また、「みやぎの明治村」を形成する漆喰作りの塀や門、蔵造りの商店からなる町並み存続のため新たな助成制度を創設し、地域の実情にあった支援を進める。															
市の記録誌	『東日本大震災の記録～震災対応と復興に向けて～』（平成26年3月）															

⑪ 栗原市 くりはらし 〒987-2293 栗原市築館薬師1-7-1 【TEL】0228-22-1122 【URL】http://www.kuriharacity.jp																													
	基本情報（平成22年4月1日時点）																												
	<table border="1"> <tr> <td>世帯数 (平成23年3月1日)</td> <td>24,612世帯</td> <td>職員数</td> <td>1,534人</td> </tr> <tr> <td>人口 (平成23年3月1日)</td> <td>74,474人</td> <td>面積</td> <td>804.93km²</td> </tr> </table>	世帯数 (平成23年3月1日)	24,612世帯	職員数	1,534人	人口 (平成23年3月1日)	74,474人	面積	804.93km ²																				
	世帯数 (平成23年3月1日)	24,612世帯	職員数	1,534人																									
	人口 (平成23年3月1日)	74,474人	面積	804.93km ²																									
	<table border="1"> <tr> <td>支所・出張所</td> <td>支所</td> <td>10か所</td> <td>出張所</td> <td>2か所</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>商業</td> <td>1,123店</td> <td>工業</td> <td>173所</td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院</td> <td>5院</td> <td>診療所</td> <td>47所</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育施設</td> <td>児童福祉施設</td> <td>14所</td> <td>幼稚園</td> <td>24園</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>31校</td> <td>中学校</td> <td>11校</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>5校</td> <td>大学・短大</td> <td>—</td> </tr> </table>	支所・出張所	支所	10か所	出張所	2か所	事業所	商業	1,123店	工業	173所	医療施設	病院	5院	診療所	47所	教育施設	児童福祉施設	14所	幼稚園	24園	小学校	31校	中学校	11校	高等学校	5校	大学・短大	—
	支所・出張所	支所	10か所	出張所	2か所																								
	事業所	商業	1,123店	工業	173所																								
	医療施設	病院	5院	診療所	47所																								
	教育施設	児童福祉施設	14所	幼稚園	24園																								
		小学校	31校	中学校	11校																								
高等学校		5校	大学・短大	—																									
年間観光客数	878,694人	ごみ総排出量	20,193t																										
市町村合併 平成17年4月に築館町、若柳町、栗駒町、高清水町、一迫町、瀬峰町、鶯沢町、金成町、志波姫町、花山村が合併し、栗原市となる。	国内姉妹都市・友好都市 あきる野市（東京都）																												
市の概要 栗駒山麓の豊かな自然の下、迫川が貫流し、伊豆沼・内沼を有しており、面積約800km ² のうち、約8割を田畑と森林が占めている。稲作を中心とした農業が基幹産業であり、食料品の製造・販売や電機・精密機械などの工場、リサイクル産業、小さなモノづくりを続ける家内工業などがある。また、積極的な企業誘致を推進している。栗駒山麓、伊豆沼・内沼、旧奥州街道、近代化産業遺産などの見どころに加え、イグネに囲まれた屋敷・長屋門などの農村景観、餅文化など、農業から育まれた特徴的な文化を体感できる。																													
被害の概要	被害の特徴																												
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 7（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 0人 震災関連死 1人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 6人 軽傷 544人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 58棟 半壊 372棟 一部損壊 4,552棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎4階にある議場の天井が落下し、庁舎周囲の歩道・舗装に一部沈下及びひび割れ等の被害を受けた。支所2所が半壊被害を受けた。 ●その他公共施設の被害 各社会教育施設等において、外内壁にひび割れが生じたほか、天井崩落及びガラス破損等の被害を受けた。 ●学校施設等の被害 各学校施設等において、外内壁にひび割れが生じたほか、天井崩落及びガラス破損等の被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 272,000 t 	市内では本震災で最も強い震度7が観測されるほどの激震に見舞われたが、死者・行方不明者は発生しなかった。しかし長期停電によるライフラインへの被害は大きく、また、若柳、高清水、金成地区において住家被害が甚大であった。市内において、平成24年3月31日時点で、り災証明書が約6,000件、被災証明書については24,000件を超える交付件数となった。また停電に伴い、浄水場や取水ポンプ場などの水道施設にも大きな被害を受け、市内のほぼ全域で断水となった。																												
避難状況・復旧状況	<p>3月12日 若柳・市道沢廻大岡線</p>																												
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 2,775人 最大避難所数 52か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～9月14日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全城復旧 電気 市内全域 3月17日 水道 25,478戸 4月4日 ガス 被害なし ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸 																													
復興計画等	「栗原市震災復興ビジョン」：平成20年岩手・宮城内陸地震と今回の震災という2度の震災を経験したことを踏まえ、自助・共助・公助を基本とした連携の更なる強化を図り、互いに支え合う地域作りを推進するほか、栗駒山麓の温泉と自然環境を資源とした観光産業の再生を軸にして、震災をバネにした新たな産業の創出による地域経済の活性化を図る。																												
市の記録誌	『震度7 東日本大震災－栗原市の記録－』（平成24年4月）																												

⑫東松島市 ひがしまつしまし 〒981-0503 東松島市矢本字上河戸36-1 【TEL】 0225-82-1111 【URL】 http://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp	
	基本情報（平成22年4月1日時点）
	世帯数 (平成23年3月1日) 15,080世帯 職員数 343人
	人口 (平成23年3月1日) 42,840人 面積 101.86km ²
	支所・出張所 支所 1か所 出張所 1か所
	事業所 商業 372店 工業 53所
	医療施設 病院 2院 診療所 22所
	教育施設 児童福祉施設 10所 幼稚園 6園 小学校 10校 中学校 4校 高等学校 2校 大学・短大 -
	年間観光客数 1,060,501人 ごみ総排出量 13,407t
	市町村合併 市内姉妹都市・友好都市 平成17年4月に矢本町、鳴瀬町が合併して東松島市となる。 更別村（北海道）
	市の概要
市の中心部を鳴瀬川と吉田川が流れ、北東部に広がる肥沃な平野部と南西部の丘陵地で形成されている。市の南側は太平洋に面し、東北としては比較的温かく雨の少ない地域で豊かな自然に恵まれている。 米作を中心とした農業、ノリ、カキ等の浅海養殖漁業、民宿等の観光が主な産業である。また、三陸縦貫自動車道鳴瀬奥松島IC・矢本IC付近に工業団地を造成し企業誘致を進めている。 市の南部に位置する宮戸島一帯は奥松島と呼ばれ、潮干狩、海水浴客でにぎわう。	
被害の概要	被害の特徴
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 6強（本震） 浸水面積 3,771ha 最大浸水高 10.1m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 1,062人 震災関連死 66人 行方不明者 25人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 62人 軽傷 59人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 5,511棟 半壊 5,560棟 一部損壊 2,427棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 本庁舎の一部で使用不能となった。津波で分庁舎が浸水したほか、出張所1所で甚大な被害を受けた。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> 市民センター及び地区センター等72施設中36施設が津波の被害を受け、そのうち11施設が全壊した。10施設が地震による被害が大きかった。地区体育館、運動公園が津波により甚大な被害を受けた。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 保育所7所が津波で被害を受け、そのうち4所が全壊。小学校3校、中学校2校が甚大な津波被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 1,568,000 t 	本市では沿岸部が津波により壊滅的な被害を受け、多くの犠牲者が発生した。市街地の65%が津波により浸水し、住宅の流出や全壊が発生するなど、人口の80%が浸水被害を受けた。 田畑は農地の1,465haが塩害等の被害があったほか、農業施設被害は180か所に上った。漁港・水産施設は6漁港の37施設が被害を受けた。また、工場、事務所、店舗等に直接被害を受けた件数は542か所（全市の71.5%）となった。 特産品への影響では、きゅうり、ミニトマト、長ねぎの販売実績が落ち込んだ。ノリ、カキも壊滅的な被害を受けており、平成24年でノリは70%、カキは50%程度の生産量となった。 本市への観光客数は、平成22年は1,123,233人であったところ、平成23年は198,658人にまで落ち込み、観光産業への影響は大きかった。 また、発災以来、JR仙石線の陸前小野駅～高城町駅間で列車運行が中止されている。 石巻駅～矢本駅間は、平成23年7月16日から、ディーゼル列車により、運行が再開された。
避難状況・復旧状況	3月 野蒜小学校付近 津波に巻き込まれ脱線した電車
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 15,185人 最大避難所数 91か所 福祉避難所数 5か所 避難所開設期間 3月11日～8月31日 最大二次避難者数（県関与分）499人 二次避難の実施期間 4月11日～8月12日 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全城復旧 電気 22,574戸 5月20日 水道 15,012戸 7月12日 ガス - ※全城復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 21団地 整備戸数 1,753戸 	
復興計画等	「東松島市復興まちづくり計画」：災害公営住宅のまちなか整備や学校、福祉施設等の一体整備により、徒歩20分圏内で生活のための機能が充足できる歩いて暮らせるまちづくりを進める。また、地域課題の解決に向けたコミュニティ・ビジネス等の促進、復興まちづくり推進員の配置や自主防災組織の見直しを通じて地域コミュニティを再興させ、住民自治の力を育む。
市の記録誌	『東松島市 東日本大震災 記録誌 あの日を忘れずともに未来へ～東松島一心～』（平成26年3月）

⑬大崎市 おおさきし

〒989-6188 大崎市古川七日町1-1

【TEL】0229-23-2111 【URL】http://www.city.osaki.miyagi.jp



基本情報（平成22年4月1日時点）

世帯数 (平成23年3月1日)	47,379世帯	職員数	1,947人
人口 (平成23年3月1日)	134,950人	面積	796.76km ²
支所・出張所	支所 6か所	出張所	11か所
事業所	商業 1,910店	工業	215所
医療施設	病院 15院	診療所	79所
教育施設	児童福祉施設	25所	幼稚園 27園
	小学校	31校	中学校 13校
	高等学校	9校	大学・短大 1校
年間観光客数	8,284,883人	ごみ総排出量	45,988t

市町村合併

平成18年3月に古川市、松山町、三本木町、鹿島台町、岩出山町、鳴子町、田尻町が合併して大崎市となる。

国内姉妹都市・友好都市

台東区（東京都）
酒田市（山形県）
宇和島市（愛媛県）
当別町（北海道）
田尻町（大阪府）

市の概要

県の北西部に位置し、江合川と鳴瀬川の豊かな流れが、肥沃な大崎耕土を潤している。約800km²の広大な市域内には、山岳地帯、丘陵地帯、水田地帯、湿地帯といった多様な景観が展開されている。

産業は農業を中核として、林業、商業、工業、サービス業、観光業が調和した、バランスのとれた産業構造となっている。

吉野作蔵記念館、酒ミュージアム、旧有備館、鳴子峡、鬼首スキー場、日本こけし館、感覚ミュージアムなど数多くの観光スポットがある。

被害の概要

- 地震・津波の概要
 - 最大震度 6強（本震）
 - 津波被害 なし
- 死者・行方不明者（平成26年4月30日時点）
 - 死者 2人
 - 震災関連死 5人
 - 行方不明者 0人
- 負傷者（平成26年4月30日時点）
 - 重症 79人
 - 軽傷 147人
 - 程度不明 0人
- 住家被害（平成26年4月30日時点）
 - 全壊 596棟
 - 半壊 2,434棟
 - 一部損壊 9,138棟
- 本庁舎・支所・出張所等の被害
 - 本庁舎の渡り廊下外壁が落下し、ガス供給管破損などの被害を受けた。支所5所で天井が落下し、壁面剥離及び亀裂等の被害を受けた。
- その他公共施設の被害
 - 各公民館で壁面の亀裂、照明の破損等の被害を受けた。体育施設で基礎杭破損による沈下、給排水設備の破損などの被害を受けた。
- 学校施設等の被害
 - 各学校施設で地盤沈下による上下水道管など地下埋設管の被害を受け、体育館の天井落下、プール本体及び給排水管施設が損傷した。
- 災害廃棄物推計量（3月27日時点）
 - 272,000 t

被害の特徴

本震と余震による二度の激しい揺れにより、建物損壊や液状化による地盤沈下等が多数発生した。

住家の全半壊はじめ、多くの店舗・事業所、公共施設、道路・橋梁・河川・堤防が被害を受けた。被害の特徴としては、地震による震動で建築基準を満たしていない古い家屋への被害が多くあった。また、液状化により、地盤沈下や上下水道管の破損、マンホールの隆起、橋梁の前後の沈下、堤防の亀裂等、社会基盤が大きな被害を受けた。

市民生活では、地震発生から電気・水道などのライフラインが停止し、大多数の市民が避難所生活を余儀なくされた。東西に長い本市では、地域により被害状況が異なっていたことも一つの特徴であり、古川地域、鹿島台地域、田尻地域では特に建物被害が多い状況となっている。

また、震災前の前年対比で約100万人の観光客が減少するなど、地震や原発事故などの風評被害の影響が大きく、間接的被害が拡大した。

避難状況・復旧状況

- 避難状況
 - 最大避難者数 11,082人
 - 最大避難所数 92か所
 - 福祉避難所数 9か所
 - 避難所開設期間 3月11日～4月29日
 - 最大二次避難者数（県関与分）0人
- ライフライン被害・復旧状況
 - 最大被害 全域復旧
 - 電気 市内全域 3月21日
 - 水道 市内全域 3月31日
 - ガス - 3月21日
 - ※4月7日の余震の影響を含む。
- 応急仮設住宅
 - 団地数 0団地
 - 整備戸数 0戸



3月11日 江合橋 道路の被害

復興計画等

「大崎市震災復興計画」：連携と交流による新たな大崎の創生を基本方針の1つに掲げ、交通の要衝という市の地域特性を生かし、内陸部と沿岸部、太平洋と日本海、東北と首都圏をつなぐ広域連携・交流機能を市の大きな役割として位置づけ、東西交通軸の整備等を進める。

市の記録誌

『東日本大震災の記録 ～宮城県大崎市災害からの復興～』（平成26年4月）

⑭蔵王町 ざおうまち		〒989-0892 刈田郡蔵王町大字田宇西浦北10 【TEL】 0224-33-2211 【URL】 http://www.town.zao.miyagi.jp				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 (平成23年3月1日)	4,233世帯	職員数	186人	
		人口 (平成23年3月1日)	12,847人	面積	152.85km ²	
		支所・出張所	支所 ー	出張所	3か所	
		事業所	商業 155店	工業	40所	
		医療施設	病院 1院	診療所	5所	
		教育施設	児童福祉施設	2所	幼稚園	5園
			小学校	5校	中学校	3校
			高等学校	1校	大学・短大	ー
		年間観光客数	157,995人	ごみ総排出量	4,118t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市				
-		-				
町の概要		県の南西部に位置し、国定公園蔵王連峰の東麓に開けた、四季折々の自然豊かな環境である。 農業と観光を二大基幹産業とする町で、農業では果樹ほか施設園芸・野菜、酪農など豊かな生産量を誇っている。 観光地としては、火口湖【御釜】や、蔵王エコーラインをシンボルとした蔵王国定公園をはじめ遠刈田温泉、スキー場、我妻家住宅などがある。				
被害の概要		被害の特徴				
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6強（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 0人 軽傷 0人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 16棟 半壊 156棟 一部損壊 1,143棟 		人的被害はなかったものの、家屋の半壊、瓦屋根の損壊、ライフラインの損壊など甚大な被害を受けた。 農林産物の生産に支障が出る状況にはならなかったが、原発事故による風評被害が続き、販売不振となっている。 遠刈田温泉地内の旅館・ホテル等にあつては、来場者が減少し、厳しい経営が続いている。				
<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎等において内外壁等の一部破損の被害を受けた。 ●その他公共施設の被害 公民館等において内外壁等一部破損の被害を受けた。体育施設において天井の一部が落下した。 ●学校施設等の被害 各学校施設において内外壁等一部破損の被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 51,000 t 						
避難状況・復旧状況						
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 300人 最大避難所数 10か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～10月11日 最大二次避難者数（県関与分） 0人 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全城復旧 電気 町内全城 3月18日 水道 3,100戸 3月27日 ガス ー ー ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸 		3月12日 発災直後				
復興計画等		-				
町の記録誌		-				

⑮七ヶ宿町 しちかしゆくまち		〒989-0592 刈田郡七ヶ宿町字関126 【TEL】 0224-37-2111 【URL】 http://www.town.shichikashuku.miyagi.jp			
		基本情報（平成22年4月1日時点）			
		世帯数 (平成23年3月1日)	706世帯	職員数	56人
		人口 (平成23年3月1日)	1,664人	面積	263.00km ²
		支所・出張所	支所 ー	出張所	ー
		事業所	商業 39店	工業	3所
		医療施設	病院 ー	診療所	3所
		教育施設	児童福祉施設	1所	幼稚園 ー
			小学校	2校	中学校 1校
			高等学校	2校	大学・短大 ー
		年間観光客数	529,953人	ごみ総排出量	447t
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市			
ー		ー			
町の概要		<p>県の西南部に位置し、福島・山形県に接している。奥羽山脈の東南斜面一帯を占める高原の町である。平均気温は10.4℃と低く冷涼で降雨量、降雪量とも多く、県内有数の豪雪地帯である。</p> <p>水稻、畜産を主とした農林産業が基幹産業を成しており、ほとんどが第二種兼業農家である。農外所得に依存する度合いが高い。</p> <p>江戸時代に参勤交代の要路であった山中七ヶ宿街道の宿場町で、本陣跡があり、今なお昔の面影が残っている。県内最大の七ヶ宿ダム、みやぎ蔵王七ヶ宿スキー場、南蔵王青少年旅行村等の観光施設がある。</p>			
被害の概要		被害の特徴			
<p>●地震・津波の概要 最大震度 5強（本震） 津波被害 なし</p> <p>●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点) 死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人</p> <p>●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 0人 軽傷 0人 程度不明 0人</p> <p>●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 0棟 半壊 0棟 一部損壊 10棟</p>		<p>●本庁舎・支所・出張所等の被害 大きな被害なし。</p> <p>●その他公共施設の被害 開発センターで外壁にひび割れが生じた。</p> <p>●学校施設等の被害 小学校で体育館の内・外壁が破損した。中学校でプール施設が破損したほか、校舎及び体育館内壁が破損した。</p> <p>●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 88,000 t</p>			
避難状況・復旧状況		<p>3月11日 道路が崩落した県道南蔵王七ヶ宿線</p> 			
<p>●避難状況 最大避難者数 41人 最大避難所数 4か所 福祉避難所数 1か所 避難所開設期間 3月11日～3月17日 最大二次避難者数（県関与分）0人</p>		<p>●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 3月16日 電気 町内全域 水道 一部地域 4月14日（峠田地区） ガス 被害なし（プロパンガスのため） ※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸</p>			
復興計画等		ー			
町の記録誌		ー			

①6大河原町 おおがわらまち		〒989-1295 柴田郡大河原町字新南19 【TEL】 0224-53-2111 【URL】 http://www.town.ogawara.miyagi.jp	
		基本情報（平成22年4月1日時点）	
		世帯数 (平成23年3月1日) 8,825世帯	職員数 193人
		人口 (平成23年3月1日) 23,465人	面積 25.01km ²
支所・出張所	支所	—	出張所 1か所
事業所	商業	393店	工業 36所
医療施設	病院	1院	診療所 16所
教育施設	児童福祉施設	5所	幼稚園 1園
	小学校	3校	中学校 2校
	高等学校	2校	大学・短大 —
年間観光客数		516,135人	ごみ総排出量 8,714t
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市	
—		—	
町の概要		県南部の中央に位置する盆地で、町の中央を白石川が流れる。平均気温12.2℃、降雨量1,060mm程度で比較的温暖な気候である。 商業が中心で小規模店舗が大部分を占めている。近年はバイパス沿道のロードサイド商店街や郊外型大型店の進出が目立つ。農業は都市化現象の影響を受け、人口、面積とも減少している。 白石川堤一目千本桜が8kmにわたって続いている。藤原時代の古跡等があり、大高山神社の銅製鯉口は国の重要文化財に指定されている。 特産品には味噌醤油、梅、ゆず、もち豚精肉・加工品、ハーブ菓子などがある。	
被害の概要		被害の特徴	
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 6弱（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 0人 震災関連死 2人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 0人 軽傷 0人 程度不明 1人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 10棟 半壊 148棟 一部損壊 1,333棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 庁舎外溝周りのインターロッキング舗装及び緑石ブロックが損傷したほか、出入口に段差が生じた。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> 公民館では亀裂が発生する被害が生じ、スポーツライต์が落下する被害を受けた。 総合体育館はアリーナ倉庫入口ドアが破損し、落下した。東部屋内運動場は天井の毛木板の一部が落下した。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 小学校で校舎内壁に亀裂が生じ、体育館モルタル壁が落下したほか、外壁に亀裂が発生するなどの被害を生じた。中学校では校舎の玄関タイルが剥離し、体育館のステージ壁が落下したほか、バスケットボール用天井吊器具が落下するなどの被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 9,000 t 		ライフラインに影響を受けたため、町内全域で停電、断水、水道管の破裂が発生した。下水道管の被害が大きく、マンホール内に汚水が停滞する箇所が発生した。 町内では町施設の損傷、水路法面崩壊など農業施設18か所、電線の垂れ下がり箇所が多数にのぼり、道路は100か所以上が陥没、隆起、亀裂が入る被害を受けた。 水道は、本管の破裂、七ヶ宿ダムからの管の破裂のため、一部の地下水を利用している地域を除き大部分が断水した。水道の復旧は早かったものの、4月7日の最大余震時に再び断水した。 住家被害については、町内の河川付近の住宅地の一部で液状化が発生し、住家が傾く等の被害があった。また、地震により農業用水路にズレが生じ、住家が傾斜する等の被害も発生した。昭和53年の宮城県沖地震以前に建てられた建物の全壊、大規模半壊が多かったほか、屋根瓦の落下、ブロック塀の倒壊が顕著であった。 観光への影響では、町を代表するイベントである「おおがわら桜まつり」の開催が中止となった。	
避難状況・復旧状況		3月19日 宇佐吉町地内 地震によるマンホールの隆起	
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 1,720人 最大避難所数 18か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～4月12日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全城復旧 電気 町内全域 3月15日 水道 町内全域 4月12日（一部除く） ガス プロパンガスのため各世帯で対応 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 0団地 整備戸数 0戸 			
復興計画等		—	
町の記録誌		—	

⑰村田町 むらたまち 〒989-1392 柴田郡村田町大字村田字追 6 【TEL】 0224-83-2111 【URL】 http://www.town.murata.miyagi.jp																
	基本情報（平成22年4月1日時点）															
	<table border="1"> <tr> <td>世帯数 (平成23年3月1日)</td> <td>3,839世帯</td> <td>職員数</td> <td>150人</td> </tr> <tr> <td>人口 (平成21年3月1日)</td> <td>11,939人</td> <td>面積</td> <td>78.41km²</td> </tr> </table>	世帯数 (平成23年3月1日)	3,839世帯	職員数	150人	人口 (平成21年3月1日)	11,939人	面積	78.41km ²							
	世帯数 (平成23年3月1日)	3,839世帯	職員数	150人												
	人口 (平成21年3月1日)	11,939人	面積	78.41km ²												
	<table border="1"> <tr> <td>支所・出張所</td> <td>支所</td> <td>1か所</td> <td>出張所</td> <td>1か所</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>商業</td> <td>165店</td> <td>工業</td> <td>35所</td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院</td> <td>—</td> <td>診療所</td> <td>11所</td> </tr> </table>	支所・出張所	支所	1か所	出張所	1か所	事業所	商業	165店	工業	35所	医療施設	病院	—	診療所	11所
	支所・出張所	支所	1か所	出張所	1か所											
	事業所	商業	165店	工業	35所											
	医療施設	病院	—	診療所	11所											
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">教育施設</td> <td>児童福祉施設</td> <td>1所</td> <td>幼稚園</td> <td>2園</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>5校</td> <td>中学校</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>1校</td> <td>大学・短大</td> <td>—</td> </tr> </table>	教育施設	児童福祉施設	1所	幼稚園	2園	小学校	5校	中学校	2校	高等学校	1校	大学・短大	—		
	教育施設		児童福祉施設	1所	幼稚園	2園										
小学校			5校	中学校	2校											
高等学校		1校	大学・短大	—												
<table border="1"> <tr> <td>年間観光客数</td> <td>412,120人</td> <td>ごみ総排出量</td> <td>3,872t</td> </tr> </table>	年間観光客数	412,120人	ごみ総排出量	3,872t												
年間観光客数	412,120人	ごみ総排出量	3,872t													
<table border="1"> <tr> <td>市町村合併</td> <td>国内姉妹都市・友好都市</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>	市町村合併	国内姉妹都市・友好都市	—	—												
市町村合併	国内姉妹都市・友好都市															
—	—															
町の概要 標高200m前後の丘陵に囲まれた田園地帯で、気候は温暖で雨は少ない。風が弱く四季を通じて過ごしやすい町である。 町の特性を生かした魅力ある農業と安定した企業誘致、活力ある商店街の形成を目指し、蔵の町並みを利用した陶器市の開催など積極的に町おこしを行い、農工商一体となった豊かで住みやすい町づくりに努めている。 観光施設には、村田町物産交流センター、村田町歴史みらい館、スポーツランドSUGOなどがある。今も残る土蔵や豪勢な門構えの町、蔵の町並みが歴史を物語る。特産品はソラマメを用いたアイスクリームなどの加工品である。																
被害の概要	被害の特徴															
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 5強（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 0人 軽傷 1人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 9棟 半壊 116棟 一部損壊 652棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎と東庁舎の内外壁等にひび割れが生じる被害を受けた。 ●その他公共施設の被害 5公民館で内外壁等にひび割れが生じる被害を受けたほか、町民体育館では天井の一部が落下した。 ●学校施設等の被害 小学校、中学校2校で内外壁等にひび割れが生じる被害を受けた。高等学校では特に大きな被害はなかった。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 26,000 t 	町内全域で電気、電話が停止し、水道管の損傷により断水が発生するなど、数日間にわたりライフラインのほとんどが機能停止した。町内各地区で、道路の亀裂、陥没、沈下、寸断や土砂崩れなどにより通行できない箇所が発生したほか、建物の損傷や崩壊なども多数に上り、700棟以上の住家が被害を受けた。また、地震により液状化した地盤もあった。 農業用施設は農道、林道、ため池、頭首工、揚水機など48か所に被害を受けた。 本町の町並みを形作っている歴史ある蔵は、町所有、個人所有の蔵のどちらにも漆喰のひび割れや土壁・瓦が崩落等の被害があり、例年開催されている蔵の工芸市、春まつりは中止となった。															
避難状況・復旧状況	<p>4月8日 水道施設の被害</p>															
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 185人 最大避難所数 6か所 福祉避難所数 2か所 避難所開設期間 3月11日～3月26日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 電気 町内全域 3月19日 水道 3,671戸 3月30日 ガス 被害なし ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸 																
復興計画等	—															
町の記録誌	—															

⑱ 柴田町 しばたまち 〒989-1692 柴田郡柴田町船岡中央2-3-45 【TEL】 0224-55-2111 【URL】 http://www.town.shibata.miyagi.jp																													
	基本情報（平成22年4月1日時点）																												
	<table border="1"> <tr> <td>世帯数 (平成23年3月1日)</td> <td>14,467世帯</td> <td>職員数</td> <td>294人</td> </tr> <tr> <td>人口 (平成23年3月1日)</td> <td>39,243人</td> <td>面積</td> <td>53.98km²</td> </tr> </table>	世帯数 (平成23年3月1日)	14,467世帯	職員数	294人	人口 (平成23年3月1日)	39,243人	面積	53.98km ²																				
	世帯数 (平成23年3月1日)	14,467世帯	職員数	294人																									
	人口 (平成23年3月1日)	39,243人	面積	53.98km ²																									
	<table border="1"> <tr> <td>支所・出張所</td> <td>支所</td> <td>1か所</td> <td>出張所</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>商業</td> <td>363店</td> <td>工業</td> <td>61所</td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院</td> <td>2院</td> <td>診療所</td> <td>21所</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育施設</td> <td>児童福祉施設</td> <td>3所</td> <td>幼稚園</td> <td>4園</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>6校</td> <td>中学校</td> <td>3校</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>1校</td> <td>大学・短大</td> <td>1校</td> </tr> </table>	支所・出張所	支所	1か所	出張所	—	事業所	商業	363店	工業	61所	医療施設	病院	2院	診療所	21所	教育施設	児童福祉施設	3所	幼稚園	4園	小学校	6校	中学校	3校	高等学校	1校	大学・短大	1校
	支所・出張所	支所	1か所	出張所	—																								
	事業所	商業	363店	工業	61所																								
	医療施設	病院	2院	診療所	21所																								
	教育施設	児童福祉施設	3所	幼稚園	4園																								
		小学校	6校	中学校	3校																								
高等学校		1校	大学・短大	1校																									
年間観光客数	260,131人	ごみ総排出量	14,153t																										
市町村合併	国内姉妹都市・友好都市																												
—	北上市（岩手県） 伊達市（北海道）																												
町の概要	町の北西部は丘陵地帯で、愛宕山、猪倉山、羽山など標高200m前後の山により盆地を形成し、東南部を阿武隈川、中央部を白石川が流れ、温暖で過ごしやすく、県内でも雪が少ない地域である。 先端技術、機械、電機、食料等の工場が進出し、内陸工業地帯として製造品出荷額は県内でも有数である。農業においては稲作をはじめ菊の栽培が盛んで、町の特産品として県内外へと出荷されている。 白石川堤の一目千本桜、船岡城址公園は全国有数の桜の名所として、春には大勢の花見客が訪れる。																												
被害の概要	被害の特徴																												
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 5強（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 2人 震災関連死 3人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 3人 軽傷 1人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 13棟 半壊 189棟 一部損壊 1,703棟 	<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <p>本庁舎では庁舎給水設備や内外壁にひび割れが生じたほか、駐車場で漏水した。支所では内外壁のクラックが生じるなどの被害を受けた。</p> ●その他公共施設の被害 <p>公民館で内外壁に亀裂が生じたほか、クロスの剥離や敷地の亀裂・陥没等の被害を受けた。文化施設では、屋根瓦及び犬走が破損したほか、内外壁にひび割れが生じ、地盤沈下の被害を受けた。運動施設ではガラスが破損し、鉄骨が湾曲するなどの被害を受けた。</p> ●学校施設等の被害 <p>小学校で地盤沈下、基礎割れ、天井板の落下、プール破損の被害を受けた。中学校で天井が破損したほか、高架水槽が漏水する被害を受けた。</p> ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <p>20,000 t</p> 																												
避難状況・復旧状況		<p>3月13日 柴田町船岡 道路被害</p>																											
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 1,130人 最大避難所数 7か所 福祉避難所数 2か所 避難所開設期間 3月11日～7月27日 最大二次避難者数（県関与分）0人 	<ul style="list-style-type: none"> ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全城復旧 電気 町内全域 4月8日 水道 町内全域 4月17日 ガス 一部地域 4月2日 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 0団地 整備戸数 0戸 																												
復興計画等	—																												
町の記録誌	—																												

19 川崎町 <small>かわさきまち</small>		〒989-1592 柴田郡川崎町大字前川字裏丁175-1 【TEL】 0224-84-2111 【URL】 http://www.town.kawasaki.miyagi.jp													
		基本情報（平成22年4月1日時点）													
		世帯数 <small>（平成23年3月1日）</small>	3,271世帯	職員数	169人										
		人口 <small>（平成23年3月1日）</small>	9,919人	面積	270.80km ²										
		支所・出張所	支所 1か所	出張所	—										
		事業所	商業 129店	工業	25所										
		医療施設	病院 2院	診療所	4所										
		教育施設	児童福祉施設	1所	幼稚園 2園										
			小学校	8校	中学校 2校										
			高等学校	1校	大学・短大 —										
		年間観光客数	988,960人	ごみ総排出量	2,778t										
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市													
—		—													
町の概要		<p>県の南西部、蔵王連峰の東側に位置し、山岳丘陵地帯と河岸段丘の発達した山間盆地に分かれている。県南内陸性気候に属し、平均気温10.3℃と比較的温暖な地域である。</p> <p>基幹産業である農業生産は低迷し、近年花きをはじめとする園芸農業、低農薬野菜などに力を入れている。</p> <p>豊かな自然環境や歴史風土、国営みちのく杜の湖畔公園、ポートピア川崎、セントメリースキー場などの観光スポットがある。仙台市と山形市を結ぶ交通の要衝であることなどから回復通年型観光地の地位を築いている。</p>													
被害の概要		被害の特徴													
<p>●地震・津波の概要</p> <p>最大震度 6強（本震） 津波被害 なし</p> <p>●死者・行方不明者 <small>（平成26年4月30日時点）</small></p> <p>死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人</p> <p>●負傷者（平成26年4月30日時点）</p> <p>重症 0人 軽傷 0人 程度不明 3人</p> <p>●住家被害（平成26年4月30日時点）</p> <p>全壊 0棟 半壊 14棟 一部損壊 460棟</p>		<p>●本庁舎・支所・出張所等の被害</p> <p>内・外壁、階段に多数のひび割れが生じ、ボイラー設備に被害を受けた。</p> <p>●その他公共施設の被害</p> <p>川崎町公民館及び分館の内・外壁にひび割れが発生するなど、被害を受けた施設は4棟。川崎町山村開発センター内壁に多数のひび割れが生じ、窓ガラスが破損した。 B&G海洋センターではアリーナ天井材が落下したほか、屋根材及び照明が破損し、プールサイドが沈下するなどの被害を受けた。</p> <p>●学校施設等の被害</p> <p>小学校3校でブロック塀が崩壊、柱や梁等にひび割れの被害を受けた。中学校でひび割れ、給排水設備の破損、グラウンドに亀裂等の被害を受けた。</p> <p>●災害廃棄物推計量（3月27日時点）</p> <p>90,000 t</p>													
避難状況・復旧状況		<p>3月 町道北向・釜房線 のり面の崩落</p> 													
<p>●避難状況</p> <p>最大避難者数 276人</p> <p>最大避難所数 6か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～3月20日</p> <p>最大二次避難者数（県関与分）0人</p>		<p>●ライフライン被害・復旧状況</p> <table border="1"> <tr> <td>最大被害</td> <td>全域復旧</td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td>町内全域 3月16日</td> </tr> <tr> <td>水道</td> <td>約2,000戸 3月28日</td> </tr> <tr> <td>ガス</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅</p> <table border="1"> <tr> <td>団地数</td> <td>0団地</td> </tr> <tr> <td>整備戸数</td> <td>0戸</td> </tr> </table>		最大被害	全域復旧	電気	町内全域 3月16日	水道	約2,000戸 3月28日	ガス	—	団地数	0団地	整備戸数	0戸
最大被害	全域復旧														
電気	町内全域 3月16日														
水道	約2,000戸 3月28日														
ガス	—														
団地数	0団地														
整備戸数	0戸														
復興計画等		—													
町の記録誌		—													

②0丸森町 まるもりまち 〒981-2192 伊具郡丸森町字鳥屋120 【TEL】 0224-72-2111 【URL】 http://www.town.marumori.miyagi.jp				
基本情報（平成22年4月1日時点）				
世帯数 (平成23年3月1日)	5,053世帯	職員数	245人	
人口 (平成23年3月1日)	15,362人	面積	273.34km ²	
支所・出張所	支所	—	出張所	7か所
事業所	商業	182店	工業	41所
医療施設	病院	1院	診療所	9所
教育施設	児童福祉施設	4所	幼稚園	—
	小学校	10校	中学校	4校
	高等学校	1校	大学・短大	—
年間観光客数	565,659人	ごみ総排出量	3,815t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市		
—		北見市（北海道）		
町の概要		県の最南端に位置し、山々が連なる阿武隈山地の一部に盆地を形成している。阿武隈山地とその支流河川流域地帯のみが平坦地であり、町域の70%ほどが山林となっている。 農林業が産業の中心で、米、酪農、養蚕、果樹、野菜、しいたけ等の栽培を行っている。また、山林は山菜の宝庫で、わらび、きのこ、ぜんまいの採取が盛んである。商業は小売業を中心とした商店がほとんどであり、工業は製造業を中心とした企業が主である。 舟下り、あぶくま荘、不動尊キャンプ場などの観光施設があるほか、農業体験ができるグリーンツーリズムを推進している。		
被害の概要		被害の特徴		
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 5強（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 0人 軽傷 1人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 1棟 半壊 38棟 一部損壊 513棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 庁舎周辺が陥没したほか、書庫内本棚が倒壊した。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> 各まちづくりセンターの建物周辺が陥没し、外壁にひび割れの被害が生じた。 町民体育館のバスケットゴールの鉄骨が損傷したほか、建物周辺が陥没、スロープが破損した。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 丸森東中学校の柱に亀裂が入り、使用不能となった。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 91,000 t 		発災直後は、町内全域で電気や電話が止まり、一部の地域では水道管の損傷により断水するなど、ライフラインのほとんどが機能を停止した。 また、各地区では道路の寸断や亀裂、のり面崩壊により通行止めとなったほか、建物の損傷・倒壊などの被害が発生した。 町は福島県と隣接していることから、高い値の空間放射線量を観測するなど、原発事故による放射能問題が深刻であった。 農林産物は風評被害を大きく受けたほか、暫定基準値を超える放射性物質が検出されたため、原木しいたけやきのこの出荷停止が相次いだ。地元の直売所においても売上げが落ち込み、特にたけのこの出荷停止以降の売上げ減少が顕著となった。 観光面では、主力の阿武隈ライン舟下りの乗船客数が、例年の2割程度に落ち込むなどの影響があった。		
避難状況・復旧状況		3月11日 小斎西線		
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 311人 最大避難所数 13か所 福祉避難所数 4か所 避難所開設期間 3月11日～8月30日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全域復旧 電気 町内全域 発災より1週間後程度 水道 一部地域 3月25日 ガス 被害なし ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 0団地 整備戸数 0戸 				
復興計画等		—		
町の記録誌		—		

㊦ 亙理町 わたりちょう 〒989-2393 亙理郡亙理町字下小路7-4 【TEL】0223-34-1111 【URL】http://www.town.watari.miyagi.jp																
	基本情報（平成22年4月1日時点）															
	<table border="1"> <tr> <td>世帯数 (平成23年3月1日)</td> <td>11,442世帯</td> <td>職員数</td> <td>273人</td> </tr> <tr> <td>人口 (平成23年3月1日)</td> <td>34,795人</td> <td>面積</td> <td>73.21km²</td> </tr> </table>	世帯数 (平成23年3月1日)	11,442世帯	職員数	273人	人口 (平成23年3月1日)	34,795人	面積	73.21km ²							
	世帯数 (平成23年3月1日)	11,442世帯	職員数	273人												
	人口 (平成23年3月1日)	34,795人	面積	73.21km ²												
	<table border="1"> <tr> <td>支所・出張所</td> <td>支所</td> <td>3か所</td> <td>出張所</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>商業</td> <td>335店</td> <td>工業</td> <td>86所</td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院</td> <td>—</td> <td>診療所</td> <td>25所</td> </tr> </table>	支所・出張所	支所	3か所	出張所	—	事業所	商業	335店	工業	86所	医療施設	病院	—	診療所	25所
	支所・出張所	支所	3か所	出張所	—											
	事業所	商業	335店	工業	86所											
	医療施設	病院	—	診療所	25所											
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">教育施設</td> <td>児童福祉施設</td> <td>5所</td> <td>幼稚園</td> <td>2園</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>6校</td> <td>中学校</td> <td>4校</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>1校</td> <td>大学・短大</td> <td>—</td> </tr> </table>	教育施設	児童福祉施設	5所	幼稚園	2園	小学校	6校	中学校	4校	高等学校	1校	大学・短大	—		
	教育施設		児童福祉施設	5所	幼稚園	2園										
小学校			6校	中学校	4校											
高等学校		1校	大学・短大	—												
<table border="1"> <tr> <td>年間観光客数</td> <td>889,780人</td> <td>ごみ総排出量</td> <td>11,575t</td> </tr> </table>	年間観光客数	889,780人	ごみ総排出量	11,575t												
年間観光客数	889,780人	ごみ総排出量	11,575t													
<table border="1"> <tr> <td>市町村合併</td> <td>国内姉妹都市・友好都市</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>伊達市（北海道）</td> </tr> </table>	市町村合併	国内姉妹都市・友好都市	—	伊達市（北海道）												
市町村合併	国内姉妹都市・友好都市															
—	伊達市（北海道）															
町の概要	県南部に位置し、東に太平洋、西に阿武隈高地の丘陵地帯、北に阿武隈川が流れ、自然に恵まれた冬暖かく夏涼しい気候の町である。都市近郊の立地条件を生かした収益性の高い野菜類をはじめ、施設園芸・果樹などの農業が主な産業で、水産業、工業も盛んである。温暖な気候を生かし、いちごやりんごの生産が盛んである。特にいちごは東北一の生産量を誇る。また、400年の歴史を誇る元祖はらこめしなどの郷土料理が有名であり、また、鳥の海に湧出したわたり温泉鳥の海は美肌効果に優れている。															
被害の概要	被害の特徴															
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 6弱（本震） 浸水面積 3,493ha 最大浸水深 8.1m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 264人 震災関連死 18人 行方不明者 6人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 2人 軽傷 43人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 2,389棟 半壊 1,150棟 一部損壊 2,048棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 本庁舎は地震により全壊した。2支所が津波により全壊した。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> 公民館1館、図書館1館、体育館2館、プール1か所が地震により半壊したほか、野球場2か所、陸上競技場1施設、体育館2館が全壊した。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 小学校2校、中学校2校が津波浸水で1階部分が使用不能となった。中学校1校の体育館が津波により使用不能となった。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 1,267,000 t 	本町では町域面積の約48%にあたる約35km ² が津波により浸水し、沿岸部の水産施設のほか田畑も浸水により大きな被害を受けた。農業施設関連では、用・排水機場、防潮樋門、ため池など148か所が被害を受けたため、浸水を免れた農地であっても塩害が予想されたことから、水稲作付の自粛を余儀なくされた。いちごについては、栽培農家約95%が被災した。いちご栽培面積約58ha中9割を超える54haが津波により壊滅的な被害を受けた。また、漁港関連施設、漁船は津波による被害を受けたほか、放射能による影響も多大に受けた。さらに、観光拠点であったわたり温泉鳥の海と産直施設鳥の海ふれあい市場も津波により壊滅的な被害を受けた。															
避難状況・復旧状況	3月11日 荒浜地区 わたり温泉鳥の海に押し寄せる津波															
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 6,699人 最大避難所数 14か所 福祉避難所数 10か所 避難所開設期間 3月11日～8月1日 最大二次避難者数（県関与分）30人 二次避難の実施期間 4月11日～7月19日 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全域復旧 電気 町内全域 3月18日 水道 町内全域 4月17日 ガス — — ※全域復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 5団地 整備戸数 1,126戸 																
復興計画等	「亙理町震災復興計画」：巨大災害の被害・影響を最小化する減災を念頭に、防潮堤や避難ビル等の整備、防災教育の徹底等の多重防御を推進する。町で長く守られてきた歴史的遺産「いぐね（屋敷林）」の保全・再生や鳥の海湾の環境整備などを中心とした豊かな緑地・水辺の創生のほか、農林、水産、観光業の復興を通してなりわいとにぎわいのまちづくりを推進する。															
町の記録誌	『亙理町東日本大震災活動等記録集』（平成25年3月）															

山元町 やまもとちょう

〒989-2292 亶理郡山元町浅生原字作田山32
 【TEL】 0223-37-1111 【URL】 http://www.town.yamamoto.miyagi.jp

基本情報（平成22年4月1日時点）			
世帯数 (平成23年3月1日)	5,561世帯	職員数	171人
人口 (平成23年3月1日)	16,608人	面積	64.48km ²
支所・出張所	支所 1か所	出張所	—
事業所	商業 140店	工業	42所
医療施設	病院 1院	診療所	5所
教育施設	児童福祉施設	3所	幼稚園 2園
	小学校	5校	中学校 2校
	高等学校	—	大学・短大 —
年間観光客数	41,092人	ごみ総排出量	5,407t
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市	
—		伊達市（北海道）	



町の概要

県の東南端に位置し、西は阿武隈山地の山並みがあり、東は太平洋に面し黒松林を抱えた海岸地帯になっている。中部は広大な田園を形成し、気候は年間を通じて温和で降雪も少ない。果樹、野菜などの園芸が盛んであり、米作収入を上回る利益を上げている。また、公害のない企業、先端技術産業等の誘致を積極的に推進している。恵まれた自然条件を生かして生産したりんご、いちごが特産品となっており、ホッキ貝は全国的にも有名である。

被害の概要

- 地震・津波の概要
 - 最大震度 6強（本震）
 - 浸水面積 2,441ha
 - 最大浸水深 14.6m
- 死者・行方不明者（平成26年4月30日時点）
 - 死者 680人
 - 震災関連死 19人
 - 行方不明者 18人
- 負傷者（平成26年4月30日時点）
 - 重症 9人
 - 軽傷 81人
 - 程度不明 不明
- 住家被害（平成26年4月30日時点）
 - 全壊 2,217棟
 - 半壊 1,085棟
 - 一部損壊 1,138棟
- 本庁舎・支所・出張所等の被害
 - 役場庁舎は地震により甚大な被害を受けた。
- その他公共施設の被害
 - 中央公民館で大ホール天井・照明器具等が落下し、外壁が損傷するなどの被害を受け、敷地内の法面が崩壊した。体育文化センターは駆体に大きな損傷を受けたほか、床が沈下するなどの被害を受けた。町民プールは全壊した。沿岸部に位置する牛橋公園及び第二体育館が津波により壊滅状態となった。
- 学校施設等の被害
 - 小学校3校、中学校2校で天井材が落下したほか、校舎に附属する建物にひび割れ、敷地の一部陥没等の被害を受けた。津波により甚大な被害を受けた小学校2校は地震、浸水の影響により全壊となった。
- 災害廃棄物推計量（3月27日時点）
 - 742,000 t

被害の特徴

本町は震度6強の地震とそれに伴う津波により未曾有の被害を受け、町内総面積のうち、37.2%にあたる24km²が浸水し、沿岸部から国道6号にかけての土地はがれきで覆われた。死者・行方不明者は690人以上、家屋の全半壊、一部損壊は4,000棟以上となった。ライフラインや公共交通機関への被害が大きく、鉄道はJR山下駅以南の線路が県境まで流出し、町内にあるJR山下駅、坂元駅では車両乗り入れができず、復旧のめどが立っていない。道路は相馬亶理線を中心とする沿岸部の主要道路が津波により破壊・寸断された。また、農地の77.8%が被災し、本町の主要特産物であるいちご栽培施設は9割以上が壊滅状態となった。米作に関しても沿岸部から国道6号までの農地（水田の約7割）が浸水した。町唯一の漁港であった磯浜漁港は、漁港へのアクセス道の寸断、防波堤の決裂など産業基盤にも壊滅的な被害を受けた。加えて、JR山下駅周辺の商業店舗や沿岸部花笠地区、牛橋地区、中浜地区に立地していた食品関連や金属製造関係等の工場は全壊・半壊状態となった。

避難状況・復旧状況

●避難状況

- 最大避難者数 5,826人
- 最大避難所数 19か所
- 福祉避難所数 5か所
- 避難所開設期間 3月11日～8月16日
- 最大二次避難者数（県関与分）182人
- 二次避難の実施期間 4月3日～10月1日

●ライフライン被害・復旧状況

最大被害	全域復旧
電気 6,098戸	3月22日
水道 5,706戸	4月28日

（復旧可能水栓のみ）

ガス — —

※全域復旧は津波で流出した地域を除く。
 ※4月7日の余震の影響を含む。

●応急仮設住宅

- 団地数 11(2)団地
- 整備戸数 1,030(284)戸

※（ ）内は、市町発注分

3月20日 JR常磐線坂元駅



復興計画等

「山元町震災復興計画」：津波被害の減災を図るため沿岸部に防潮堤や防災緑地を整備する。防災緑地は海とのつながりを意識できる憩いや交流の場とするほか、モニュメントにより震災の記憶を後世に伝える。農業においては、いちごなど新作物の作付けを誘導するほか、新たにストロベリーラインを配置し、その沿線にいちご畑を集約して町の特産品である「仙台いちご」の復興を図る。

町の記録誌

『山元町 東日本大震災記録誌 希望と笑顔が輝くまちへ』（平成25年3月）

②③松島町 まつしままち		〒981-0215 宮城郡松島町高城字帰命院下一9-1 【TEL】 022-354-5701 【URL】 http://www.town.matsushima.miyagi.jp			
		基本情報（平成22年4月1日時点）			
		世帯数 (平成23年3月1日)	5,492世帯	職員数	156人
		人口 (平成23年3月1日)	15,014人	面積	54.04km ²
		支所・出張所	支所 —	出張所	—
		事業所	商業 199店	工業	14所
		医療施設	病院 1院	診療所	5所
			児童福祉施設 3所	幼稚園	3園
		教育施設	小学校 3校	中学校	1校
			高等学校 1校	大学・短大	—
		年間観光客数	3,735,000人	ごみ総排出量	6,326t
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市			
—		にかほ市（秋田県） 上天草市（熊本県）			
町の概要		<p>宮城郡の東端に位置し、町士の50%は松島丘陵で気候は表日本型気候に属し、年間平均気温が11～12℃、年間降水量1,100mm前後、年間を通じての風向きは北西風が多い。</p> <p>農業、漁業、商業が均衡をとって発展した観光地であり、就業者の約56%が仙台市等へ通勤している。</p> <p>全国有数の観光地で、特別名勝、県立自然公園に指定されており、現在国際観光モデル地区として国際化のための施設整備を進めている。</p> <p>また、瑞巖寺をはじめとした文化遺産が町内各地に残されている。</p>			
被害の概要		被害の特徴			
<p>●地震・津波の概要</p> <p>最大震度 6弱（本震） 浸水面積 157ha 最大浸水高 2.8m</p> <p>●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点)</p> <p>死者 2人 震災関連死 5人 行方不明者 0人</p> <p>●負傷者（平成26年4月30日時点）</p> <p>重症 3人 軽傷 34人 程度不明 0人</p> <p>●住家被害（平成26年4月30日時点）</p> <p>全壊 221棟 半壊 1,785棟 一部損壊 1,561棟</p>		<p>●本庁舎・支所・出張所等の被害</p> <p>本庁舎では基礎杭が変形する被害を受けた。</p> <p>●其他公共施設の被害</p> <p>公民館の玄関及び駐車場で地割れが生じた。運動施設の玄関でも地割れが生じたほか、電化システムが破損した。</p> <p>●学校施設等の被害</p> <p>保育所2所、幼稚園1園が半壊被害を受けた。小学校3校、中学校1校で建物周囲の側溝が沈下したほか、壁にひび割れが生じるなどの被害を受けた。</p> <p>●災害廃棄物推計量（3月27日時点）</p> <p>256,000 t</p>			
避難状況・復旧状況		<p>3月11日 松島湾内</p>			
<p>●避難状況</p> <p>最大避難者数 3,719人</p> <p>最大避難所数 45か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～8月3日</p> <p>最大二次避難者数（県関与分）0人</p>					
<p>●ライフライン被害・復旧状況</p> <p>最大被害 全域復旧</p> <p>電気 町内全域 3月18日 水道 町内全域※ 4月10日 ガス 被害なし</p> <p>※全域復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅</p> <p>団地数 0団地 整備戸数 0戸</p>					
復興計画等	「松島町震災復興基本方針」：今回の震災を契機に、単なる復旧ではなく自然、歴史・文化等の松島固有の多様な地域資源を最大限に活かし、新しい松島を創造していくほか、近隣市町への貢献の責任を自覚し、あわせて今後の災害時における他の自治体への支援を行っていく。				
町の記録誌	『東北地方太平洋沖地震 東日本大震災—記録・検証— 新しい防災まちづくりのために—』（平成24年3月）				

⑭七ヶ浜町 しちがはままち		〒985-8577 宮城郡七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺 5-1 【TEL】 022-357-2111 【URL】 http://www.shichigahama.com				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 (平成23年3月1日)	6,568世帯	職員数	161人	
		人口 (平成23年3月1日)	20,353人	面積	13.27km ²	
		支所・出張所	支所 ー	出張所	ー	
		事業所	商業 124店	工業	10所	
		医療施設	病院 ー	診療所	8所	
		教育施設	児童福祉施設	2所	幼稚園	5園
			小学校	3校	中学校	2校
			高等学校	ー	大学・短大	ー
		年間観光客数	347,890人	ごみ総排出量	6,801t	
		市町村合併	ー	国内姉妹都市・友好都市	ー	
		本町は三方を海に囲まれた半島状の地形であり、中央は丘陵で、海岸に向かって放射状に開いた形になっている。気候は寒暖の差が少なく温暖である。 従来より漁業中心の経済構造であったが、浅海養殖業の衰退により、隣接市町への通勤者が増えている。 県内有数の観光客を誇る菖蒲田海水浴場のほか、多聞山、桜の名所の君ヶ岡公園がある。また、七ヶ浜国際村等の文化施設をはじめ、七ヶ浜健康スポーツセンター「アクアリーナ」などの施設が充実している。				
被害の概要		被害の特徴				
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 5強（本震） 浸水面積 520ha 最大浸水高 11.6m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 75人 震災関連死 3人 行方不明者 2人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 不明 軽傷 不明 程度不明 不明 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 674棟 半壊 649棟 一部損壊 2,601棟 		<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 本庁舎の内外壁及び天井などが破損する被害を受けた。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> 中央公民館では柱及び壁にひび割れが生じ、エキスパシジョンジョイント、階段周りの壁が損傷した。図書センター、給食センターは補修不可能となり解体した。アクアリーナは半壊、町民体育館は全壊、屋内運動場、野球場サッカースタジアム、武道館は一部損壊の被害を受けた。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 児童福祉施設では地盤沈下、壁にひび割れ等の被害を受けた。七ヶ浜中学校は地震により半壊した。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 242,000 t 				
避難状況・復旧状況						
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 6,143人 最大避難所数 36か所 福祉避難所数 3か所 避難所開設期間 3月11日～6月20日 最大二次避難者数（県関与分）0人 		<ul style="list-style-type: none"> ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全城復旧 電気 町内全域 4月上旬 水道 6,518戸 4月17日 ガス 1,360戸 4月中旬 ※全城復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 7団地 整備戸数 421戸 				
復興計画等		「七ヶ浜町震災復興計画」：三方を海に囲まれた地形を踏まえた自然と共存するねばり強いハザード（防護）の構築、町名に由来する7つの浜とその間に広がる多様な海岸線の景観や緑豊かな住宅地などの再興、将来の七ヶ浜を担う子どもたちを育成するための教育や子育て施設の復興などを通して、快適で住みやすいまちづくりを目指す。				
町の記録誌		『東日本大震災 七ヶ浜町 震災記録集 次代への伝承』（平成26年3月）				

25 利府町 りふちょう 〒981-0112 宮城郡利府町利府字新並松4 【TEL】 022-767-2111 【URL】 http://www.town.rifu.miyagi.jp	
	基本情報（平成22年4月1日時点）
	世帯数 (平成23年3月1日) 11,536世帯 職員数 239人
	人口 (平成23年3月1日) 34,279人 面積 44.75km ²
	支所・出張所 支所 ー 出張所 ー
	事業所 商業 220店 工業 53所
	医療施設 病院 1院 診療所 16所
	教育施設 児童福祉施設 6所 幼稚園 4園 小学校 6校 中学校 3校 高等学校 1校 大学・短大 ー
	年間観光客数 1,586,197人 ごみ総排出量 13,860t
	市町村合併 ー 国内姉妹都市・友好都市 ー
	町の概要 県のほぼ中央に位置し、東部は太平洋に面して日本三景松島の一角を成し、南部には大規模な県立公園として整備された加瀬沼、西部には宮城スタジアムをはじめとする県総合運動公園（グランディ・21）や県民の森がある。 従来は稲作を主とした果樹野菜等の複合農業が中心であったが、近年団地開発が進むとともに人口が増加し、近隣市町村への通勤者が増えている。 特産品は県内最古の長十郎梨を代表とする利府梨で、もぎたての梨が食べられる観光梨園がある。また、10月の十符の里一利府フェスティバルは町内外の人でにぎわいを見せる。
被害の概要	被害の特徴
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6弱（本震） 浸水面積 14ha 最大浸水深 6.3m ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 1人 震災関連死 0人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 4人 軽傷 0人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 56棟 半壊 901棟 一部損壊 3,557棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎の駐車場に段差が発生したが、建物自体には損傷なし。 ●その他公共施設の被害 生涯学習センター、公民館で内壁が破損したほか、ガス及び水道が破損した。運動施設4か所で内外壁が破損したほか、天井の落下、基礎回りが沈下する被害を受けた。 ●学校施設等の被害 児童福祉施設は壁面及び基礎にひび割れが生じ、天井板がずれるなどの被害を受けた。小・中学校の被害は内外壁のひび割れが主な被害。小学校1校では渡り廊下が大破したほか、プールサイドが沈下するなどの被害を受けた。中学校1校で体育館の窓枠とガラスが破損した。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 24,000 t 	本町における最大震度は6弱を記録し、沿岸部の浜田地区と須賀地区で床上・床下浸水被害が発生した。この被害により学校を含む町内20か所の避難所等に最大2,018人の住民が避難した。 道路等は180か所以上で亀裂や段差が発生、公園は擁壁破損等、農業用施設では溜池堤体の亀裂等の被害を受けた。 水産物では松島湾内のノリ、ワカメ、コンブ、カキなどの養殖施設、カキ処理場に被害を受けた。特にカキは種ガキが全て流出した。また、漁船4隻が沈没等の被害を受けた。 内陸部の農業については、津波が到達しなかったため水田の塩害は発生せず、大きな問題はなかった。原発事故の影響に関しても、本町は放射線量が低い地域であることから、特産品の梨などについて出荷停止はなかった。
避難状況・復旧状況	3月12日 JR陸前浜田駅前 津波被害
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 2,018人 最大避難所数 20か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～5月23日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 電気 町内全域 4月9日 水道 町内全域 4月17日 ガス 町内全域 4月11日 ※全域復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸 	
復興計画等	「利府町震災復興計画」：ライフラインなどの生活基盤の再建、新たな住宅地及び防災機能を強化する道路網の整備促進などの都市構造の再構築、企業進出の促進や津波で被害を受けた漁業の再生など産業・経済活動の再構築と発展、防災教育の充実や地域コミュニティの育成により災害時における地域力の強化を目指し安全・安心なまちづくりを推進する。
町の記録誌	『東日本大震災の記録』（平成26年3月）

②6 大和町 <small>たいわちょう</small> 〒981-3680 黒川郡大和町吉岡字西松木1-1 【TEL】022-345-1111 【URL】http://www.town.taiwa.miyagi.jp																																													
	基本情報（平成22年4月1日時点）																																												
	<table border="1"> <tr> <td>世帯数 <small>(平成23年3月1日)</small></td> <td>9,137世帯</td> <td>職員数</td> <td>196人</td> </tr> <tr> <td>人口 <small>(平成23年3月1日)</small></td> <td>25,366人</td> <td>面積</td> <td>225.59km²</td> </tr> <tr> <td>支所・出張所</td> <td>支所 ー</td> <td>出張所</td> <td>1か所</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>商業 255店</td> <td>工業</td> <td>56所</td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院 1院</td> <td>診療所</td> <td>15所</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育施設</td> <td>児童福祉施設</td> <td>2所</td> <td>幼稚園</td> <td>2園</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>7校</td> <td>中学校</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>1校</td> <td>大学・短大</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td>年間観光客数</td> <td>347,565人</td> <td>ごみ総排出量</td> <td>9,729t</td> </tr> <tr> <td>市町村合併</td> <td colspan="3">国内姉妹都市・友好都市</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">-</td> </tr> </table>	世帯数 <small>(平成23年3月1日)</small>	9,137世帯	職員数	196人	人口 <small>(平成23年3月1日)</small>	25,366人	面積	225.59km ²	支所・出張所	支所 ー	出張所	1か所	事業所	商業 255店	工業	56所	医療施設	病院 1院	診療所	15所	教育施設	児童福祉施設	2所	幼稚園	2園	小学校	7校	中学校	2校	高等学校	1校	大学・短大	1校	年間観光客数	347,565人	ごみ総排出量	9,729t	市町村合併	国内姉妹都市・友好都市				-	
世帯数 <small>(平成23年3月1日)</small>	9,137世帯	職員数	196人																																										
人口 <small>(平成23年3月1日)</small>	25,366人	面積	225.59km ²																																										
支所・出張所	支所 ー	出張所	1か所																																										
事業所	商業 255店	工業	56所																																										
医療施設	病院 1院	診療所	15所																																										
教育施設	児童福祉施設	2所	幼稚園	2園																																									
	小学校	7校	中学校	2校																																									
	高等学校	1校	大学・短大	1校																																									
年間観光客数	347,565人	ごみ総排出量	9,729t																																										
市町村合併	国内姉妹都市・友好都市																																												
	-																																												
町の概要																																													
県のほぼ中央に位置し、東部は吉田川水系の平坦な水田地帯、西部は丘陵部を経て奥羽山系に続いている。 米作を中心とした都市近郊型農業が行われている。また、仙台北部中核工業団地には多くの優良企業が操業し、先端技術産業の基地として発展している。 原阿佐緒記念館、宮床宝蔵、旧宮床伊達住宅、まほろばホールなどの観光文化施設がある。 県立自然公園船形連邦の裾野に広がる「七ツ森」は町のシンボルであり、七ツ森の麓を発祥の地とする民謡「お立ち酒」が有名である。																																													
被害の概要																																													
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 6弱（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者 （平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 0人 震災関連死 1人 行方不明者 1人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 0人 軽傷 7人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 42棟 半壊 268棟 一部損壊 2,790棟 ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 外壁タイルが破損し落下したほか、内壁ボードが破損した。敷地の地盤沈下により污水管が断絶した。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> まほろばホールでは反響板ガイドレール等が破損した。総合体育館では天井材の落下や、ひび割れ等の被害を受けた。 体育センターはガラス等の破損とひび割れ被害を受けた。武道館は壁面にひび割れが生じるなどの被害を受けた。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 児童館1館が被災し、体育館は使用できなくなった。小学校1校の屋内運動場の基礎部分に被害を受けた。4校のプールで水漏れ、配管破損の被害を受けた。中学校2校の受水槽に水漏れが生じた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 76,000 t 	被害の特徴																																												
避難状況・復旧状況																																													
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 1,513人 最大避難所数 16か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～3月20日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全域復旧 電気 町内全域 3月15日 水道 2,700戸 3月30日 ガス 仙台市都市ガス供給地区 3月25日 ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 0団地 整備戸数 0戸 	<p>3月11日 林道において車道及びのり面が崩落</p>																																												
復興計画等	-																																												
町の記録誌	『2011・3・11 東日本大震災の記録』（平成24年6月）																																												

⑰大郷町 おおさとちょう		〒981-3592 黒川郡大郷町粕川字西長崎5-8 【TEL】022-359-3111 【URL】http://www.town.miyagi-osato.lg.jp				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 (平成23年3月1日)	2,621世帯	職員数	105人	
		人口 (平成23年3月1日)	8,871人	面積	82.02km ²	
		支所・出張所	支所 ー	出張所	ー	
		事業所	商業 88店	工業	32所	
		医療施設	病院 ー	診療所	2所	
		教育施設	児童福祉施設	1所	幼稚園	1園
			小学校	4校	中学校	1校
			高等学校	ー	大学・短大	ー
		年間観光客数	486,630人	ごみ総排出量	2,359t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市				
ー		ー				
町の概要		<p>県中央部に位置し、町の南側と北側は丘陵地である。中央部を吉田川が流れ、地域は低湿地帯となっており、比較的温暖な気候である。</p> <p>農産物や加工品を消費者に提供し、町の魅力を伝えるグリーンツーリズム事業を展開し、地域の活性化と自立産業を目指している。良好な自然条件や地域社会、地場産業と融和した工業団地の整備を推進し、自然に優しい優良企業の誘致を進めている。</p> <p>「慶長遣欧使節」支倉常長が晩年を過ごした地であり、道の駅「おおさとふるさとプラザ」では町の特産品を展示販売しているほか、大郷牛等特産品を使った料理を味わうことができる。</p>				
被害の概要		被害の特徴				
<p>●地震・津波の概要</p> <p>最大震度 6弱（本震） 津波被害 なし</p> <p>●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点)</p> <p>死者 1人 震災関連死 0人 行方不明者 0人</p> <p>●負傷者（平成26年4月30日時点）</p> <p>重症 1人 軽傷 4人 程度不明 0人</p> <p>●住家被害（平成26年4月30日時点）</p> <p>全壊 50棟 半壊 274棟 一部損壊 791棟</p>		<p>●本庁舎・支所・出張所等の被害</p> <p>議場の天井が崩落する被害を受けた。</p> <p>●その他公共施設の被害</p> <p>公民館1館と公民館2館分館が全壊した。B&G海洋センターのアリーナ天井が落下した。フラッグ大郷21の周囲ではアスファルトが隆起する被害を受けた。</p> <p>●学校施設等の被害</p> <p>児童福祉施設で運動場が滑落した。小・中学校は大きな被害なし。</p> <p>●災害廃棄物推計量（3月27日時点）</p> <p>27,000 t</p>				
避難状況・復旧状況		<p>3月17日 下水道施設の被災</p>				
<p>●避難状況</p> <p>最大避難者数 538人</p> <p>最大避難所数 9か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～3月26日</p> <p>最大二次避難者数（県関与分）0人</p>		<p>●ライフライン被害・復旧状況</p> <p>最大被害 全域復旧</p> <p>電気 町内全域 3月16日 水道 町内全域 3月26日 ガス プロパンガスのため各世帯で対応 ※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅</p> <p>団地数 1団地 整備戸数 15戸</p>				
復興計画等	ー					
町の記録誌	ー					

28 富谷町 とみやまち

〒981-3392 黒川郡富谷町富谷字坂松田30
 【TEL】 022-358-3111 【URL】 <http://www.town.tomiya.miyagi.jp>

基本情報（平成22年4月1日時点）			
世帯数 (平成23年3月1日)	16,289世帯	職員数	272人
人口 (平成23年3月1日)	47,501人	面積	49.13 km ²
支所・出張所	支所 ー	出張所	5か所
事業所	商業 296店	工業	18所
医療施設	病院 3院	診療所	18所
教育施設	児童福祉施設	6所	幼稚園 5園
	小学校	7校	中学校 5校
	高等学校	1校	大学・短大 ー
年間観光客数	21,318人	ごみ総排出量	16,446t
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市	
ー		ー	

町の概要

県の中央に位置しており、土地は南部が比較的高く、ほかには100m以下の丘陵が起伏した地形である。東日本型気候で、四季を通じて過ごしやすい。
 農業の活性化を目指して、意欲的にブルーベリーの生産に力を注いでいる。また、自立的なまちづくりの展開に向け、企業誘致とともに工業立地基盤の整備を進めている。
 観光は大亀山森林公園、ブルーベリーつみどり園、大亀山キャンプ場等で自然を楽しむ。また、県内最古の酒蔵「内ヶ崎酒造店」の酒、ブルーベリーの加工品などが特産品である。

被害の概要

- 地震・津波の概要
 最大震度 6弱（本震）
 津波被害 なし
- 死者・行方不明者
 （平成26年4月30日時点）
 死者 0人
 震災関連死 1人
 行方不明者 0人
- 負傷者（平成26年4月30日時点）
 重症 2人
 軽傷 30人
 程度不明 0人
- 住家被害（平成26年4月30日時点）
 全壊 16棟
 半壊 537棟
 一部損壊 5,305棟
- 本庁舎・支所・出張所等の被害
 内外壁に多数のひび割れが生じ、議場の天井板が落下した。
- その他公共施設の被害
 公民館で多数のひび割れが生じた。スポーツセンターアリーナや武道館では天井板が落下した。運動施設のテニスコートで一部沈下、スポーツセンター外溝が沈下するなどの被害を受けた。
- 学校施設等の被害
 幼稚園では建物壁面ひび割れが生じ、園庭の一部が沈下するなどの被害を受けた。小学校では給水管が破断したほか、ひび割れ、体育館天井材が破損するなどの被害を受けた。中学校ではスピーカーが落下したほか、ひび割れが生じるなどの被害を受けた。
- 災害廃棄物推計量（3月27日時点）
 18,000 t

被害の特徴

発災直後より、電気、水道、通信などのライフラインが停止した。水道は県広域水道の2系統が送水管破断となったため、町内への送水が全て途絶え、一時は町内全域の給水率が5.7%にまで落ち込み、全域復旧までには19日間を要した。
 建物被害に関しては、一部損壊となる家屋が多数発生した。また、町道4路線において亀裂や陥没、のり面崩壊のため道路が全面通行止めとなった。
 農業施設関係では、農道の亀裂や段差、路肩崩壊、水路破損、用排水路埋没等の被害を受けた。
 町の特産品であるブルーベリーは、定期的に流通品の放射性物質検査を実施したが、特に問題は発生しなかった。

<p>●避難状況</p> <p>最大避難者数 3,236人</p> <p>最大避難所数 28か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～3月28日</p> <p>最大二次避難者数（県関与分）0人</p>	<p>●ライフライン被害・復旧状況</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>最大被害</td> <td>全城復旧</td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td>町内全域 3月14日</td> </tr> <tr> <td>水道</td> <td>15,355戸 3月30日</td> </tr> <tr> <td>ガス</td> <td>プロパンガス以外供給停止 4月16日</td> </tr> </table> <p>※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>団地数</td> <td>0団地</td> </tr> <tr> <td>整備戸数</td> <td>0戸</td> </tr> </table>	最大被害	全城復旧	電気	町内全域 3月14日	水道	15,355戸 3月30日	ガス	プロパンガス以外供給停止 4月16日	団地数	0団地	整備戸数	0戸
最大被害	全城復旧												
電気	町内全域 3月14日												
水道	15,355戸 3月30日												
ガス	プロパンガス以外供給停止 4月16日												
団地数	0団地												
整備戸数	0戸												

復興計画等 ー

町の記録誌 『東日本大震災の記録 内陸部自治体500日の取組み』（平成24年10月）

3月11日 天井板が落下した富谷町議会議場

⑨大衡村 おおひらむら		〒981-3692 黒川郡大衡村大衡字平林62 【TEL】 022-345-5111 【URL】 http://www.village.ohira.miyagi.jp				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 (平成23年3月1日)	1,615世帯	職員数	82人	
		人口 (平成23年3月1日)	5,361人	面積	60.19km ²	
		支所・出張所	支所 ー	出張所	ー	
		事業所	商業 49店	工業	35所	
		医療施設	病院 ー	診療所	3所	
		教育施設	児童福祉施設	1所	幼稚園	1園
			小学校	1校	中学校	1校
			高等学校	ー	大学・短大	ー
		年間観光客数	246,989人	ごみ総排出量	2,165t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市				
ー		ー				
村の概要		<p>県のほぼ中央、仙台から25km、大崎市古川から15kmの国道4号線を中心とした南北県土軸上に位置しており、仙台都市圏北端部の「まち」として県北部との要衝地にあたる。</p> <p>稲作・花き栽培を主とした農業と自動車関連企業の進出による工業、環境を重視した新エネルギー導入に取り組み、活気に満ちたまちづくりを進めている。</p> <p>昭和万葉の森、達居森と湖畔自然公園、万葉クリエートパーク、大衡村ふるさと美術館、おおひら万葉パークゴルフ場などの観光スポットで豊かな自然を満喫できる。</p>				
被害の概要		被害の特徴				
<p>●地震・津波の概要 最大震度 6強（本震） 津波被害 なし</p> <p>●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点) 死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人</p> <p>●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 0人 軽傷 4人 程度不明 0人</p> <p>●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 0棟 半壊 19棟 一部損壊 764棟</p>		<p>●本庁舎・支所・出張所等の被害 天井の一部が破損したほか、一部の照明器具が破損した。</p> <p>●その他公共施設の被害 公共施設に大きな被害なし。</p> <p>●学校施設等の被害 内・外壁にひび割れが生じたほか、一部設備が破損したが、大きな被害なし。</p> <p>●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 20,000 t</p>				
避難状況・復旧状況		 <p>③月13日 国道457号 歩道の崩落</p>				
<p>●避難状況 最大避難者数 350人 最大避難所数 8か所 福祉避難所数 1か所 避難所開設期間 3月11日～3月16日 最大二次避難者数（県関与分）0人</p> <p>●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 村内全域 3月16日 村内全戸 3月26日 企業向け都市ガス 震災より1か月程度 ※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸</p>						
復興計画等		ー				
村の記録誌		ー				

③0色麻町 <small>しまちょう</small>		〒981-4122 加美郡色麻町四竈字北谷地41 【TEL】 0229-65-2111 【URL】 http://www.town.shikama.miyagi.jp				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 <small>（平成21年3月末）</small>	1,953世帯	職員数	104人	
		人口 <small>（平成21年3月末）</small>	7,406人	面積	109.23km ²	
		支所・出張所	支所 ー	出張所	ー	
		事業所	商業 60店	工業	19所	
		医療施設	病院 1院	診療所	ー	
		教育施設	児童福祉施設	2所	幼稚園	2園
			小学校	2校	中学校	1校
			高等学校	1校	大学・短大	ー
		年間観光客数	142,373人	ごみ総排出量	1,727t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市				
-		-				
町の概要		県立自然公園船形連邦に連なる山岳丘陵が起伏し、森林地帯に源を発する花川、保野川、長谷川が東方中心部へ貫流し、肥沃な水田地帯は日本有数の穀倉地帯大崎耕土の一角を形成している。 農業を基幹産業として米、畜産、野菜等があり、農業基盤整備と大型機械導入により経済の安定化が図られ、余剰労力は第2次、第3次産業に移行している。 「かっぱのふるさと」として知られ、公衆浴場「かっぱの湯」、地場産直品直売施設「穀菜センター」は多くの客で賑わう。エゴマ、南山りんご、アマチャヅル茶などが特産品である。				
被害の概要		被害の特徴				
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 <ul style="list-style-type: none"> 最大震度 5強（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者 （平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 重症 0人 軽傷 9人 程度不明 0人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） <ul style="list-style-type: none"> 全壊 0棟 半壊 15棟 一部損壊 215棟 		<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 大きな被害なし。 ●その他公共施設の被害 <ul style="list-style-type: none"> 公民館、文化施設、運動施設等に被害なし。 ●学校施設等の被害 <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園1園の教室内壁にひび割れが生じた。小学校2校では壁にひび割れが生じ、窓ガラスと空調設備吹き出し口が破損した。中学校では渡り廊下にひび割れが生じた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） <ul style="list-style-type: none"> 36,000 t 				
避難状況・復旧状況		本町は内陸部に位置しているため、津波による被害は受けなかったが、震度5強の地震により、住宅の一部損壊やブロック塀破損のほか、電気、下水道などのライフラインに被害を受けた。水道は電気ポンプを使用しているため、停電により水が使用できなくなった。 公共施設の被害については、間伐材流通合理化センターの大規模半壊、水道事業所の床沈下、町道64か所の亀裂、道路の陥没による通行止め2線、水道施設の漏水等があった。 本町の基幹産業である農業関連では、296,729㎡の田面において地割れ等の被害、排水路破損が生じた。 観光では、本場仙台牛ステーキが好評であった県内初の公営ステーキハウス「ふるさと」が地震による地盤崩壊の被害を受けた。				
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大避難者数 83人 最大避難所数 2か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～9月30日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 <ul style="list-style-type: none"> 最大被害 全城復旧 電気 町内全域 3月18日 水道 1,918戸 3月18日 ガス 被害なし ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 <ul style="list-style-type: none"> 団地数 0団地 整備戸数 0戸 		4月11日 蔵の倒壊				
復興計画等		-				
町の記録誌		-				

①加美町 かみまち		〒981-4292 加美郡加美町字西田三番5 【TEL】0229-63-3111 【URL】http://www.town.kami.miyagi.jp				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 (平成23年3月1日)	7,962世帯	職員数	328人	
		人口 (平成23年3月1日)	25,421人	面積	460.82km ²	
		支所・出張所	支所 2か所	出張所	—	
		事業所	商業 381店	工業	66所	
		医療施設	病院 —	診療所	15所	
		教育施設	児童福祉施設	4所	幼稚園	6園
			小学校	10校	中学校	3校
			高等学校	1校	大学・短大	—
		年間観光客数	1,327,741人	ごみ総排出量	8,099t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市				
平成15年4月に中新田町、小野田町、宮崎町が合併して加美町となる。		山形市（山形県）				
町の概要		<p>県北西部に位置し、船形山をはじめとする奥羽山脈を背に、鳴瀬川、田川などが貫流している。加美富士と呼ばれる葉菜山がそびえ、扇状型に開けた平坦地は穀倉地帯大崎耕地の一角をなしている。</p> <p>稲作と畜産との複合経営など農業を基幹産業とし、地域資源や伝統技術に根差した地場産業振興やインターチェンジへの近隣性を生かした工業の導入、地域商業の振興などを進めている。</p> <p>パッハホール、東北陶磁文化館などの文化施設があるほか、県立自然公園船形山連峰などの大自然で多彩なレジャーが楽しめる。</p>				
被害の概要		被害の特徴				
<p>●地震・津波の概要</p> <p>最大震度 5強（本震） 津波被害 なし</p> <p>●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点)</p> <p>死者 0人 震災関連死 0人 行方不明者 0人</p> <p>●負傷者（平成26年4月30日時点）</p> <p>重症 0人 軽傷 33人 程度不明 0人</p> <p>●住家被害（平成26年4月30日時点）</p> <p>全壊 8棟 半壊 35棟 一部損壊 749棟</p> <p>●本庁舎・支所・出張所等の被害</p> <p>本庁舎の内外壁及び射体が損傷するなどの被害を受けた。支所では内壁等にひび割れが生じたほか、ガラスが破損した。</p> <p>●その他公共施設の被害</p> <p>公民館の内外壁にひび割れが生じたほか、タイル剥離、照明が落下するなどの被害を受けた。文化施設は地盤沈下、内外壁のひび割れ、天井破損等の被害を受けた。運動施設はタイル破損、天井破損、内外壁破損等の被害を受けた。</p> <p>●学校施設等の被害</p> <p>小学校の内外壁にひび割れが生じたほか、天井破損、地盤沈下、建具等がずれる被害を受けた。中学校では天井ボード等破損、シャッター建付け不良、高架水槽の水漏れ被害を受けた。</p> <p>●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 155,000 t</p>		<p>本町では最大震度5強を観測し、地震により町内各所で建物や道路の損壊が発生した。</p> <p>被害の特徴としては、町内全域で建物の一部損壊が見られたほか、地盤の弱かった一部地域で液状化や地滑り等が発生し、住家が全壊あるいは大規模半壊となった。</p> <p>道路は亀裂や地盤沈下のため町道4路線が一部通行止めとなった。</p> <p>ライフラインについては、発災直後から町内全域で停電し、電話は一部不通となった。停電により水源地から汲み上げポンプが停止したため、上水道は一部の地域でにごり水が発生した。</p> <p>また、原発事故の影響を受け、町内の山際の地区では放射線物質による汚染数値が高い値で検出された。</p> <p>農畜産関係では、牧草供給等の自粛要請を受けたほか、汚染稲わらの問題も発生した。</p> <p>特産品への影響もあり、放射性物質汚染による農産物の出荷停止、風評被害を受けた。</p>				
避難状況・復旧状況		<p>3月11日 町道に生じた段差とひび割れ</p>				
<p>●避難状況</p> <p>最大避難者数 315人</p> <p>最大避難所数 12か所 福祉避難所数 0か所 避難所開設期間 3月11日～10月1日</p> <p>最大二次避難者数（県関与分）0人</p> <p>●ライフライン被害・復旧状況</p> <p>最大被害 全域復旧 電気 全域停電 4月8日 水道 一部地区 3月16日 ガス 被害なし</p> <p>※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅</p> <p>団地数 0団地 整備戸数 0戸</p>						
<p>●復興計画等</p> <p>—</p>						
町の記録誌		—				

③2 涌谷町 わくやちょう		〒987-0192 遠田郡涌谷町字新町裏153-2 【TEL】 0229-43-2111 【URL】 http://www.town.wakuya.miyagi.jp				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 (平成23年3月1日)	5,846世帯	職員数	312人	
		人口 (平成23年3月1日)	17,399人	面積	82.08km ²	
		支所・出張所	支所 ー	出張所	ー	
		事業所	商業 207店	工業	36所	
		医療施設	病院 3院	診療所	7所	
		教育施設	児童福祉施設	2所	幼稚園	5園
			小学校	5校	中学校	2校
			高等学校	1校	大学・短大	ー
		年間観光客数	430,485人	ごみ総排出量	5,138t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市				
ー		ー				
町の概要		大崎平野の東に位置し、南を江合川、北を迫川、東を北上川に囲まれ、水利に富んでいる。中央部は笥岳山と加護坊山を結ぶ丘陵からなっており、町内を南北に分離している。古くから良質米の産地であるほか、小ねぎ、ほうれんそうなどのハウス園芸野菜にも力を入れている。また、バイパス沿道へ商業施設や工場を誘致し、農商工一帯の発展を図っている。奈良時代に我が国で初めて黄金を産出し、大仏建立に使用されたことから、国指定史跡「黄金山産金遺跡」がある。また、天平ろまん館や日帰り温泉施設なども整備されている。				
被害の概要		被害の特徴				
<ul style="list-style-type: none"> ●地震・津波の概要 最大震度 6強（本震） 津波被害 なし ●死者・行方不明者（平成26年4月30日時点） 死者 1人 震災関連死 0人 行方不明者 1人 ●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 1人 軽傷 20人 程度不明 24人 ●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 144棟 半壊 735棟 一部損壊 1,034棟 		<ul style="list-style-type: none"> ●本庁舎・支所・出張所等の被害 庁舎の被害なし。 ●その他公共施設の被害 涌谷公民館は建物が傾斜し使用不能となった。資料館は外壁及び屋根に亀裂が生じた。天平ろまん館は煉瓦が損壊した。体育館、青少年ホームは地盤沈下の被害が生じた。 ●学校施設等の被害 幼稚園1園で浄化槽の破損と下水配管沈下破損などの被害を受けた。小・中学校では内外壁の被害のほか、外渡り廊下犬走りにひび割れが生じ、体育館外壁、建具等のガラスの被害などの被害を受けた。 ●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 28,000 t 				
避難状況・復旧状況		本町は震度6強を観測し、家屋の倒壊、公共施設、道路などに被害を受けた。本震後も大きな余震が続き、電気、水道などのライフラインが停止し住民生活に影響を与えた。4月7日には震度6弱の大きな余震が発生したため、ライフラインが再び停止する事態も生じた。農林業については、津波の被害を免れたこともあり、大きな被害は受けず、特に問題は発生しなかった。商業に関しては、店舗が地震で倒壊し、資金不足のため再建することができずに廃業した商店が多数発生した。また、町内の工場のうち数か所が発災後に休業したものの、耐震設備が整備されていたこともあり、顕著な被害はなかった。本町は津波の被害を直接には受けなかったが、県内でも特に津波の被害が甚大であった石巻市や東松島市等は通勤圏内であり、多くの住民が一時的に職を失い、経済面に少なからず影響があった。				
<ul style="list-style-type: none"> ●避難状況 最大避難者数 529人 最大避難所数 17か所 福祉避難所数 1か所 避難所開設期間 3月11日～9月4日 最大二次避難者数（県関与分）0人 ●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 電気 ー 水道 ー 4月17日 ガス ー ※4月7日の余震の影響を含む。 ●応急仮設住宅 団地数 0団地 整備戸数 0戸 		3月12日 上谷地橋阿元付近の状況				
復興計画等		「復興まちづくりマスタープラン」：被災者・住民のいのちと健康を守るまちづくりを基本理念に掲げ、豊かな自然を活用した食と農による産業の活性化、サービス付き高齢者向け住宅の整備、生薬・漢方に関する理解の向上を通じた健康問題に関する住民の意識向上及び生薬・漢方の普及促進、規制緩和を通じた医療・介護等の基盤・連携強化を図る。				
町の記録誌		ー				



③③美里町 みさとまち		〒987-8602 遠田郡美里町北浦字駒米13 【TEL】0229-33-2111 【URL】http://www.town.misato.miyagi.jp				
		基本情報（平成22年4月1日時点）				
		世帯数 (平成23年3月1日)	8,465世帯	職員数	285人	
		人口 (平成23年3月1日)	25,055人	面積	75.06km ²	
		支所・出張所	支所	—	出張所	—
		事業所	商業	273店	工業	48所
		医療施設	病院	3院	診療所	13所
		教育施設	児童福祉施設	2所	幼稚園	5園
			小学校	6校	中学校	3校
			高等学校	2校	大学・短大	—
		年間観光客数	452,516人	ごみ総排出量	8,385t	
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市				
平成18年1月に小牛田町、南郷町が合併して美里町となる。		—				
町の概要		<p>仙台平野の北東端に位置し、奥羽山脈から流れる江合川や鳴瀬川等の沖積平野が広がる平坦な地形で、町の約70%を水田や畑が占める。冬季の降水量が少なく降雪期間も比較的短い。豊かな穀倉地帯であるが、国道や県道沿いには工場や大型店の立地が進んでいる。基幹産業である農業は、米や野菜だけでなく、果樹や施設園芸等も盛んである。</p> <p>6月には活き生き田園フェスティバル、8月にはえきフェスMISATOが開催され、多くの人で賑わう。地場産品が並ぶ「花野果市場」やログハウスの宿泊施設「でんえん土田畑村」も好評である。</p>				
被害の概要		被害の特徴				
<p>●地震・津波の概要 最大震度 6強（本震） 津波被害 なし</p> <p>●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点) 死者 0人 震災関連死 1人 行方不明者 0人</p> <p>●負傷者（平成26年4月30日時点） 重症 19人 軽傷 48人 程度不明 0人</p> <p>●住家被害（平成26年4月30日時点） 全壊 129棟 半壊 627棟 一部損壊 3,130棟</p> <p>●本庁舎・支所・出張所等の被害 本庁舎では議場の天井の落下や、内外壁に多数のひび割れが生じたほか、非常用照明器具が破損するなどの被害を受けた。庁舎では内外壁に多数のクラックが生じた。</p> <p>●その他公共施設の被害 公民館の内外壁に多数のひび割れが生じたほか、地下入水槽亀裂破損などの被害を受けた。文化会館では天井が落下して舞台装置が、近代文学館では防火たれ壁が破損するなどの被害を受けた。また、農業者トレーニングセンターの屋根が剥離した。</p> <p>●学校施設等の被害 幼稚園3園は建物損壊が激しく閉園。小・中学校は校舎周辺が陥没し、ガラスが破損、内外壁のひび割れ、給水排水施設が陥没するなどの被害を受けた。</p> <p>●災害廃棄物推計量（3月27日時点） 27,000 t</p>		<p>本町では最大震度6強を観測し、激しい揺れにより建物の倒壊が多数発生した。液状化による地割れ、道路の陥没、亀裂が町内のいたるところで見られ、一部通行止めとなった箇所もあった。道路は特に下水道管を埋没した箇所被害が集中した。</p> <p>ライフラインは寸断され、水道管の破裂により町内全域が断水となり、復旧まで約1か月を要した。</p> <p>農業関係施設等の被害では、用排水路被害が37件と最も多く、揚水機被害28件、ントリーエレベーター等も被害を受けた。特産品への影響については、いちごの高設栽培設備に被害が出たため出荷不能となった。ばら鉄骨ハウスに被害が出たほか、停電により暖房器具が使用できず生育に遅れが生じた。</p> <p>商工業関係施設では工場や事務所等の建物一部破損、商品、機械の破損等があった。</p> <p>観光資源については、寺院の屋根一部崩落、宿泊施設の給排水設備破損などの被害があった。</p>				
避難状況・復旧状況		 <p>4月7日夜の余震で全壊した民家</p>				
<p>●避難状況 最大避難者数 2,516人 最大避難所数 25か所 福祉避難所数 2か所 避難所開設期間 3月11日～8月17日 最大二次避難者数（県関与分）0人</p> <p>●ライフライン被害・復旧状況 最大被害 全域復旧 電気 町内全域 4月9日 水道 町内全域 4月9日 ガス 集中プロパンガス配管破損 平成24年4月ごろ全面復旧 ※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅 団地数 2団地 整備戸数 64戸</p>						
復興計画等				—		
町の記録誌		『3・11東日本大震災の記録』（平成25年3月）				

34 女川町 おながわちょう

〒986-2261 牡鹿郡女川町女川浜字女川136 (仮庁舎) 〒986-2292 牡鹿郡女川町女川浜字大原316
 【TEL】 0225-54-3131 【URL】 http://www.town.onagawa.miyagi.jp



基本情報 (平成22年4月1日時点)

世帯数 (平成23年3月1日)	3,852世帯	職員数	265人
人口 (平成23年3月1日)	9,932人	面積	65.79km ²
支所・出張所	支所 —	出張所	—
事業所	商業 183店	工業	54所
医療施設	病院 1院	診療所	4所
教育施設	児童福祉施設	3所	幼稚園 —
	小学校	3校	中学校 2校
	高等学校	1校	大学・短大 —
年間観光客数	743,350人	ごみ総排出量	3,942t
市町村合併		国内姉妹都市・友好都市	
—		—	

町の概要

県東部の牡鹿半島基部に位置し、三陸海岸の南部と金華山を中心とする南三陸金華山国定公園に指定されている。北上山地と太平洋が交わる風光明媚なりアス式海岸を有し、出島や江島などの離島が点在している。総面積の約86%が山地で起伏に富み、気候は比較的温暖である。

世界三大漁場を控え、良好な漁場環境を有し、沿岸漁業・水産関連産業を中心に、ギンザケ、カキ、ホヤ等の養殖も盛んである。マリナル女川を観光拠点に雄大な海洋自然景観を臨むことができ、自然保養的なレクリエーションの場としてスポーツ愛好者や家族連れで賑わう総合運動場や女川駅に隣接の女川温泉ゆぼっぼなどがある。

また、南部に女川原子力発電所が立地している。

被害の概要

- 地震・津波の概要
 - 最大震度 6弱 (本震)
 - 浸水面積 293ha
 - 最大浸水高 18.5m
- 死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点)
 - 死者 585人
 - 震災関連死 22人
 - 行方不明者 263人
- 負傷者 (平成26年4月30日時点)
 - 重症 不明
 - 軽傷 不明
 - 程度不明 不明
- 住家被害 (平成26年4月30日時点)
 - 全壊 2,924棟
 - 半壊 349棟
 - 一部損壊 661棟
- 本庁舎・支所・出張所等の被害
 - 本庁舎は津波で冠水する被害を受けた。
- その他公共施設の被害
 - 運動公園施設では陸上競技場トラック、フィールド、総合体育館ガラス、天井パネル等に被害を受けた。生涯教育センター、マリナル女川、女川町立第二保育所、出島保育所、温泉風呂施設等が津波により全壊した。
- 学校施設等の被害
 - 女川第一、第二小学校、女川第一中学校1校で地震により内外壁が損傷したほか、天井材・照明器具等が落下する被害を受けた。
- 災害廃棄物推計量 (3月27日時点)
 - 512,000 t

被害の特徴

本町は、津波遡上高が県内で最大の34.7mを記録し、町内の7割が津波の被害を受け、多くの人命が失われた。

市街地西部の旭が丘や浦宿等一部を除く町内の大半の市街地、離半島部の集落が津波により被災し、そのほとんどの建物が全半壊の被害を受けた。

女川港では、チリ地震津波対策として整備していた湾口防波堤が津波により流出し、女川港に面するマリナル女川、工業地周辺、女川駅、女川町役場周辺等が壊滅的な被害を受けた。基幹産業である水産業の被害は大きく、ギンザケ、カキ、ホヤ、ホタテ等養殖施設、カキ処理場、荷揚げ施設等が被災した。漁港、港湾部等は地盤沈下により、原型復旧だけでは再生が難しく、港周辺部の被害拡大や復旧作業にも影響を及ぼした。

女川原子力発電所全号機においては、地震及び津波の影響により一部の設備に被害があったが、設計どおり自動停止し、3月11日に2号機、翌12日には1号機及び3号機が冷温停止状態となった。なお、宮城県原子力防災対策センター (オフサイトセンター) は津波により全壊した。

避難状況・復旧状況

- 避難状況
 - 最大避難者数 5,720人
 - 最大避難所数 25か所
 - 福祉避難所数 1か所
 - 避難所開設期間 3月11日～11月9日
 - 最大二次避難者数 (県関与分) 238人
 - 二次避難の実施期間 5月1日～11月1日
- ライフライン被害・復旧状況
 - 最大被害 全域復旧
 - 電気 町内全域 9月21日
 - 水道 町内全域 5月10日
 - ガス プロパンガスのため各世帯で対応
 - ※全域復旧は津波で流出した地域を除く。
 - ※4月7日の余震の影響を含む。
- 応急仮設住宅
 - 団地数 30 (1) 団地
 - 整備戸数 1,294 (189) 戸
 - ※ () は市町発注分

3月11日 女川浜字女川 津波襲来時の様子



復興計画等

「女川町復興計画」：防潮堤などハード対策の整備のみならず、被災体験を語り継ぐ防災塾の設置など、地震が来たら逃げる行動を促すソフト対策を推進する。また、海洋研究学術ゾーンを設定して研究者の受入施設等を整備し、これをメモリアル公園 (津波倒壊ビルの保存) と有効に機能させることで国内外からの研究者の交流や人材育成の場を充実させ、町の再生を目指す。

町の記録誌

—

35 南三陸町 <small>みなみさんりくちょう</small>		〒986-0792 本吉郡南三陸町志津川字塩入77 (仮庁舎) 本吉郡南三陸町志津川字沼田56-2								
【TEL】 0226-46-2600 【URL】 http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp										
				基本情報 (平成22年4月1日時点)						
				世帯数 (平成23年3月1日)		5,362世帯	職員数		352人	
				人口 (平成23年3月1日)		17,378人	面積		163.74km ²	
				支所・出張所		支所 1か所	出張所		—	
				事業所		商業 285店	工業		42所	
				医療施設		病院 1院	診療所		7所	
				教育施設		児童福祉施設		3所	幼稚園	1園
						小学校		5校	中学校	3校
						高等学校		1校	大学・短大	—
				年間観光客数		1,028,049人	ごみ総排出量		5,530t	
市町村合併				国内姉妹都市・友好都市						
平成17年に志津川町、歌津町の2町が合併して南三陸町となる。				—						
町の概要				<p>県の北東部、本吉郡に位置し、東は太平洋に面し、三方を山に囲まれた自然環境を形成している。沿岸部はリアス式海岸特有の豊かな景観を有する。</p> <p>沿岸部はカキ、ギンザケ、ワカメ等の養殖漁業が中心で、かまぼこ、ウニ、ホタテ等の水産加工業も盛んである。また、山間部では花き栽培、畜産、稲作等の農業が行われている。</p> <p>南三陸金華山国定公園の一角を形成しており、田東山・神割崎などの景勝地に海水浴、海釣り、キャンプを楽しむ観光客が訪れる。また、世界最古の魚竜「ウタツサウルス」の化石が出土した場所である。</p>						
被害の概要				被害の特徴						
<p>●地震・津波の概要</p> <p>最大震度 6弱 (本震) 浸水面積 978ha 最大浸水深 19.6m</p> <p>●死者・行方不明者 (平成26年4月30日時点)</p> <p>死者 599人 震災関連死 20人 行方不明者 216人</p> <p>●負傷者 (平成26年4月30日時点)</p> <p>重症 不明 軽傷 不明 程度不明 不明</p> <p>●住家被害 (平成26年4月30日時点)</p> <p>全壊 3,143棟 半壊 178棟 一部損壊 1,204棟</p>		<p>●本庁舎・支所・出張所等の被害</p> <p>本庁舎・防災対策庁舎、支所が津波により壊滅的な被害を受けた。</p> <p>●その他公共施設の被害</p> <p>志津川地区、戸倉地区、歌津地区にある多数の公共施設が流出するなど、甚大な被害を受けた。</p> <p>●学校施設等の被害</p> <p>小学校3校、中学校1校が津波による被害を受けた。このほか、数多くの設備等が流出した。</p> <p>●災害廃棄物推計量 (3月27日時点)</p> <p>689,000 t</p>		<p>県内で最大値を記録した浸水高約20mの津波により、海岸沿いの低地にあった市街地、集落、農地のほとんどが浸水し、家屋、商店、工場、漁船などがほぼ流失した。</p> <p>本町では、昭和35年のチリ地震時の浸水マップや県の被害想定を合わせた震災浸水マップを作成していたが、想定していた浸域をはるかに超えたため、浸水マップの区域外に住んでいた多くの住民が亡くなった。また、低地にあった公共施設はほぼ流失し、庁舎も流されたことから行政機能が一時的に麻痺した。</p> <p>ライフラインは長期間寸断し、国道4号や国道398号等の幹線道路、鉄道、橋りょうなどは津波で損壊され、数か月にわたり公共交通網が分断された。交通網の寸断は、救急活動、支援物資運送等に大きな影響を及ぼした。</p> <p>また、地震によって約70cmの地盤沈下が発生し、満潮時の浸水や冠水が起こりやすくなった。町内に23ある漁港でも地盤沈下により満潮時に船着き場が水没する箇所が発生した。</p> <p>観光については、海の自然体験の拠点施設であった志津川ネイチャーセンターが津波により大きく損壊した。また、魚竜化石の上に建てられた全国でも珍しいミュージアム「魚竜館」は壊滅的な被害を受けた。</p>						
避難状況・復旧状況				4月5日 折立川防潮水門の状況						
<p>●避難状況</p> <p>最大避難者数 9,753人 最大避難所数 54か所 福祉避難所数 1か所 避難所開設期間 3月11日～10月20日</p> <p>最大二次避難者数 (県関与分) 1,348人 二次避難の実施期間 4月11日～10月6日</p>		<p>●ライフライン被害・復旧状況</p> <p>最大被害 全域復旧 電気 町内全域 5月末 水道 町内全域 9月5日 ガス — —</p> <p>※全域復旧は津波で流出した地域を除く。 ※4月7日の余震の影響を含む。</p> <p>●応急仮設住宅</p> <p>団地数 58 (2) 団地 整備戸数 2,195 (50) 戸 ※ () 内は市町発注分</p>								
復興計画等		「南三陸町震災復興計画」：津波の進行方向を踏まえた道路、避難階段及びスロープなどの整備による逃げやすいまちづくりを柱に減災対策を進める。また、役場や病院など災害時に重要な役割を担う施設や避難弱者等が利用する施設については、防災拠点としての活用も視野に入れ、将来人口も勘案し再配置する。さらに語り部の育成など復興を先導するシンボルプロジェクトを推進する。								
町の記録誌		—								

